

忍郷友会



公益財団法人 忍郷友会 とは・・・

創 立

明治四年（一八七一年）の廃藩置県で東京を初め、全国に散った旧忍藩士の人たち八十余名が、明治三十八年（一九〇五年）十月二十二日東京向島百花園に集まり、親睦会として発会式が行われたのが本会の始まりで、同年十二月六日には藩主嗣子松平忠壽少尉の白露戦争凱旋祝賀会が盛大に開催されて本会の基礎が出来、会報第一号が刊行されました。

その後地方在住の士族の他、忍郷にゆかりの一般の人たちも加わり、交流を深め会員相互の親睦、個人の知徳の涵養を目指しながら、ふるさとの為最初は東京に遊学する忍町の学生を援助するなど、後継者の育成と郷土の文化発展にも意を尽くして年月を重ねてきました。

（一般財団法人から公益財団法人へ）

財団法人の認可

昭和十年の創立三十周年大会以後は、それまでの幹事制から会長制に替わり、林頼三郎中央大学総長を会長に、松平忠壽貴族院議員を名誉会長に選び、その後昭和十三年に文部省（現文部科学省）より「教育活動を行なう財団法人」として認可され、平成二十六年三月三十一日まで継続してまいりました。

平成二十六年四月一日には、制度改革による法改正に伴い一般財団法人からより社会的信頼・信用が高い公益財団法人への移行を申請、内閣府より厳格な審査の結果公益財団法人として認可されました。

会 員

全国的に見ても郷友会はいくつかありますが、法人格を有しているのは本会だけです。現在の会長は、（奥平）松平家十六代の松平忠昌氏です。

本会は明治、大正、昭和の大きな歴史的試練にもめげずに活動は続けられ、会員の延べ数は数千人を超えており、その方々の分野も政界、官界、軍部（戦前）、法曹界、経済界、教育界、学会、美術芸能その他多岐に亘っています。平成二十七年は創立一一〇周年、忍郷人として誇り高く生きてきた郷土を愛する人々の集まりであります。どこにいても、いつも行田のことが忘れられない人々の集まり、それが忍郷友会です。現在の会員数は二百三十余名です。

目的と事業

本会の創立者の遺志を継承し、行田地方を中心に東京、神奈川など県内外の会員と関係者の支援を仰ぎながら、会員同士の親睦、知徳の涵養と人格の向上を図りつつ、これからの地域社会や国家の繁栄隆昌に役立つリーダーや後継者の人づくりを目指し、社会教育と学校教育の支援事業を行っていきます。本会の目指す究極の人間像は「確かな知識とともに高い倫理観と品性を備えた人」であります。

（文責 渡邊 栄一）

公益財団法人

忍郷友会広報誌 第七十四号

目

次

二〇一八年に向けて……………	松平 忠昌……………	2
事務局長報告……………	矢澤 大和……………	3
平成28年度 事業報告……………		4
収支決算書・貸借対照表……………		7
忍郷友会役員名簿……………		8
平成29年度 会員名簿……………		9
平成29年度 事業行事経過メモ……………		10
第32回 浮き城のまち行田		
「少年の主張大会」……………	瀬山 文孝……………	12
忍郷友会会長賞作品①……………	吉野 雄飛……………	12
忍郷友会会長賞作品②……………	向井 玄真……………	13
忍郷友会会長賞作品③……………	呉 知香……………	14
読書推進運動について……………	須郷 和美……………	15

進脩塾活動について……………	田代 敬二……………	16
第十五回全国藩校サミット金沢大会に参加して……………	平井 武夫……………	19
北陸のお城を訪ねてきました……………	鈴木 秀憲……………	22
行田市郷土博物館の三十年と松平下総守家 （展覧会と収蔵資料から）……………	鈴木 紀三雄……………	26
「和装文化の足元を支え続ける 足袋蔵のまち行田」の日本遺産認定……………	中島 洋一……………	28
川柳・俳句……………		29
御名刺掲載欄……………		31
編集後記……………	橋本 恭一……………	34

二〇一八年に向けて



公益財団法人 忍郷友会

会長 松平 忠 昌

明治三十八年十月に創立・発足し、平成二十六年四月に公益財団法人として認可されました忍郷友会は、一三年目を迎える事になり、日本全国でも稀有な長い歴史を有する財団であります。

当会の歴史と伝統は、申すまでもなく、先輩諸氏を始めとする会員皆様の揺るぎ無い郷土愛と献身的な奉仕の精神に基づく活動の賜物であり、お陰様で我々が出来る事業を積極的に継続出来ております。

公益事業の柱として積極的に推進・活動している「進脩塾事業」は、昨年から「朗唱まつり」を開催し、「市民公開講座」も継続して開催するなど、本年も公益活動に注力して参ります。新たに「歴史講座」も開講する計画をしており、広く

一般の方々を含めた会員に郷土の歴史、忍藩の歴史を知って頂き、郷土に誇りを持ち郷土を愛する心の動機づけを目指す事にしますので、宜しくご支援・ご理解の程をお願い致します。

行田市教育委員会が主催される「浮城のまち行田少年の主張大会」も青少年の声・発表を直に聞く事が出来る良い機会となっており、行政との協力関係の友好的な関係維持のためにも良いものとなっておりますので、会員各位にも当該事業をご理解頂き会場に足を運んで頂くなど積極的にご参加下さるようお願い致します。

勿論、継続事業であります「読書推進」についても内容を充実する事を念頭に活動して参ります。

ご高承の通り、当会の活動の中

心は、国や地域行田の宝である青少年の教育を支援し、人材育成を目指した二燈照隅の教育支援活動であり、これからも上述の事業活動を継続する事は当然であります。心の柱となる教育に目を向け、心に拠り所となる郷友会とするように更に努力して参る所存です。

平成十九年に移転した事務局は、鈴木秀憲副会長と矢澤事務局長を中心に運営を図っており、順調に事業を推進出来ていると確信致しますが、会員の皆様にも引き続きご理解と暖かいご支援・ご協力をお願い致します。公益と並行して、本年は会員相互の交流や親睦の機会や活動の場を増やせる様に工夫して参りたく考えておりますので、忌憚のないご意見・ご提案をお寄せ頂ければ幸いです。

尚、昨年十一月に公益財団法人移行後初めての内閣府による検査が実施され、厳しい評価と改善指導を受けましたので、出来る事を着実に実施して行くように運営・管理に当たって参ります。

一方、国内では、安倍晋三首相の政治体制の下に、諸政策が推進さ

れている訳ですが、安定的な政治運営の下に諸策の実施による対策や改善が着実に実施され、超高齢化社会、社会福祉、経済諸政策が実る事を期待し、二〇二〇年開催の東京オリンピックに向けての諸活動に注目して参りたいと思えます。

他方、海外に目を向けてみますと、米国ではトランプ大統領の誕生、英国のEU離脱、中国の軍事・経済での突出や北朝鮮問題、等々と日本を取り巻く環境は更に厳しいものとなっておりますが、この様な時であるからこそ情報に目や耳を傾けて、足元を見詰めながら自らの出来る事を推進して行くべきと考えます。

「違いの判る人間を育成する教育への支援」によつて、行田から日本、世界の将来を担う人々を輩出できる様に「二燈照隅」の想いで事業を推進・継続して参りますので、皆様も健康に留意願い、当会活動にご理解・ご協力とご支援を宜しくお願い申し上げます。

事務局 長 報 告



事務局 長 矢 澤 大 和

以前、このスペースは、会議の内容を記していましたが、別に議事録が掲載してあり内容の重複もありましたので、議事録は増田事務局員にお任せし、別の角度から当会の動きをご案内したいと思います。

十二月初め、一通の簡易書留が事務局に届きました。中身を調べると、両面プリントのいかにも再生紙然としたどちらかというと、貧相な書類が一枚。表題には「貴法人の運営組織及び事業活動の状況に関する立入検査の実施について（通知）」とありました。

ハハハ、これが以前、会長がおっしゃっていた「立ち入り検査」の通知か。

因みに「立ち入り検査」を調べてみると、「行政機関の職員が、行政法規遵守の確認のため、事務所などに立ち入り、帳簿、設備などを検査すること」とあります。

発信人は、内閣総理大臣 安倍

晋三とあり内閣総理大臣の角印がビシッと押印してありました。後で気が付きましたが、その下に公益認定等委員会 委員長〇〇〇〇と、内閣総理大臣之印と同じ大きさで。公益財団法人忍郷友会は

内閣府の管轄と聞いていましたが、内閣総理大臣名で通知が来るとは、大変。まず、通知の書類でビビってしまいました。重要書類との認識で机の引き出しの奥に収納。その結果、この通知を松平忠昌会長に転送するのを失念してしまい、松平会長には大変な失礼をいたしてしまいました。この場をお借りしてお詫びを申し上げます。

それよりかなり以前に松平会長より、準備書類のリストをいただき準備を始めましたが、何せ初めてのこと。暗中模索でした。鈴木秀憲副会長の提案で、事前に松平会長に行田にお越しいただいて準備

の事前打ち合わせも実施しました。

いよいよ十一月三〇日を迎えました。忍郷友会側は、松平会長、鈴木副会長、奥田評議員、増田事務局員と私。検査開始予定午前十時の五分前、公益認定等委員会事務局大臣官房公益法人行政担当室 審査監督官Iさん、同政策企画調査官のOさんの二名が来訪されました。Iさんは、髪は短髪、ガツシリとした体格で長身、防衛省からの出向だそうです。一見、公務員離れして見えます。Oさんは、公務員然としており、ある意味予想通りの方でした。

検査の要点は3点

事業が、決められた内容か

経理が正しく処理されているか

法人の自治が守られているか

午前中は、事業内容の質疑応答。進脩塾事業、少年の主張大会支援事業、読書推進支援事業、藩校サミット支援事業の順での質疑応答です。まず、松平会長からこれらに事業についての説明があり、また、奥田評議員から進脩館事業について補足の説明がなされました。各事業での動員数の多さ、継続事業の長さにIさん、Oさん、ともに大変驚かされていたようです。質疑に大変熱がこもり、私自身十一時少

し前と認識していましたが、十二時少し前でした。二時間が、それほど短く感じたことは、余りありません。昼食後十三時から二時間くらいの間、帳票・書類の確認。これも滞りなく終了しました。増田事務局員の素晴らしい事前準備の賜物だと感謝です。検査のお二方での検査の結果の打ち合わせの後、口頭で結果説明がありました。

事業についての指摘はありませんでした

主な「気づき事項」は以下の通りです。

謝金規定をつくる

遊休財産の適正化

事業費、管理費のチェック等

謝金規定の制定及び松平会長が以前より懸念されていた遊休財産の適正化については、一か月以内を目標に理事会を開催し、規定施行、適正化させたいと思います。

これらの検査を通じて、事業に關しては現在の路線を延長・拡大でよいと確信いたしました。反省点は、事業の記録を集めるのに、時間がかかりました。三年に一度はこのような検査があるそうです。検査の時に慌てないためにも、事業終了後に記録の整理をしつかりお願いいたします。

平成二十八年度 事業報告

1 会 議

(1) 総 会

① 定時決算総会

(会務報告、講演会、懇親会)

日 時 平成二十八年五月二十五日(水)

参加者 五十五名

午後三時～午後七時三十分

会 場 行田市・ベルウィアイトピア
来 賓

行田市市長代理

川島 将史 様

行田市議会議長

平社 輝男 様

埼玉県議会議員

鈴木 聖二様令夫人

行田商工会議所名誉会頭

鈴木 秀憲 様

行田商工会議所会頭

小川 雅以 様

行田商工会議所副会頭

細井 保雄 様

行田ロータリークラブ会長

小澤 瑛 様

行田さくらロータリークラブ会長

阿部 秀二郎様

行田ライオンズクラブ会長

岡田 安秀 様

(公社) 行田青年会議所理事長

山岸 泰輔 様

(株)埼玉新聞社代表取締役

小川 秀樹 様

ものづくり大学学長

赤松 明 様

埼玉浮き城プロバスケットボールクラブ会長

須郷 隆 様

忍藩主阿部家二十二代ご当主

阿部 正靖 様

特別招待者

小池 ミチ子様

講演会講師

世川 祐多 様

松平忠昌議長より平成二十七年年度の事業および決算、監査について報告があった

記念講演

「パリの現状から考える」

忍郷友会の存在意義」

講師 世川 祐多 様(本会会員、

国立パリ第七大学博士課程)

懇親会

② 定時予算総会

(会務報告・賀正会)

日 時 平成二十九年一月二十八日(土)

参加者 六十二名

午後三時～午後七時

会 場 霞会館(霞が関ビル二十四階)
来 賓

行田市市長代理

川島 将史 様

行田商工会議所会頭

小川 雅以 様

行田商工会議所名誉会頭

鈴木 秀憲 様

行田商工会議所副会頭

細井 保雄 様

行田商工会議所副会頭

大久保 毅 様

(公社) 行田青年会議所理事長

佐野 友昭 様

(公社) 行田青年会議所専務理事

三島 透 様

行田ロータリークラブ会長

大野 年司 様

行田さくらロータリークラブ会長

五十幡和彦 様

埼玉浮き城プロバスケットボールクラブ会長

須郷 隆 様

(株)埼玉新聞社代表取締役

小川 秀樹 様

ものづくり大学学長

赤松 明 様

忍藩主阿部家二十二代ご当主

阿部 正靖 様

行田市立埼玉小学校校長

岡島 信行 様

講演会講師

宮川 公男 様

叙勲受章者

村山 吉廣 様

叙勲受章者

興 淳明 様

松平忠昌会長より平成二十九年年度の事業計画及び予算について報告があった

講演

「高度経済成長期から

アベノミクスまで

戦後70年の日本経済社会の変化を考える」

講師 一橋大学・麗澤大学名誉教授

当会名誉理事 宮川 公男 様

少年の主張

優秀作品の発表と紹介

(2) 役員会

① 理事・監事会

日 時 平成二十八年四月二十日(水)

午後一時三十分～午後三時三十分

会 場 公益財団法人忍郷友会本部

事務所

審議事項

1 平成二十七年事業報告書

(案) について

2 平成二十七年収支決算書

(案) について

3 定時総会・講演会・懇親会ご

案内(案) について

4 総会・講演会・懇親会 タイ

- ② 評議員会
- 日時 平成二十八年五月二十五日(水)
午後二時～午後二時五〇分
- 会場 ベルヴィアイトピア
- 審議事項
- 1 平成二十七年事業報告書の承認を求める件について
 - 2 平成二十七年収支決算書の承認を求める件について
 - 3 定時総会・講演会・懇親会ご案内について
 - 4 定時総会・講演会・懇親会タイムテーブルについて
 - 5 予算総会・講演会・懇親会ご招待者について
- 報告事項
- 慶弔に関する内規について、新入会員承認の件について議決報告があった
- 以上慎重に審議され、承認された
- ③ 理事・監事会
- 日時 平成二十八年十一月十四日(月)
午後一時三〇分～午後三時
- 会場 公益財団法人忍郷友会本部事務所

- 審議事項
- 1 平成二十九年事業計画(案)について
 - 2 平成二十九年予算(案)について
 - イ 「進脩塾」事業計画・予算(案)について
 - ロ 「浮き城のまち行田少年の主張大会」事業計画・予算(案)について
 - ハ 「読書推進実行委員会」事業計画・予算(案)について
 - 3 評議員辞任の承認を求める件について
 - 4 評議員選任の承認を求める件について
 - 5 新入会員承認の件
 - 6 平成二十九年一月二十八日(土)開催の予算総会及び賀正会承認の件
 - 7 平成二十八年度「進脩塾」事業計画・予算修正について
- 報告事項
- 委員長人事案として読書推進実行委員会の委員長を須郷和美評議員、広報委員会委員長を橋本恭一評議員にする事が提案され、評議員会への報告事項とする
- 事務局の就業日程を平成二十九年一月一日より火曜日・金曜日に変更する事が了承された
- 以上慎重に審議され、承認された

- ④ 評議員会
- 日時 平成二十八年十二月八日(木)
午後一時三〇分～午後三時三〇分
- 会場 行田市商工センター 四〇二号室
- 審議事項
- 1 平成二十九年事業計画について
 - 2 平成二十九年予算について
 - イ 「進脩塾」事業計画・予算(案)について
 - ロ 「浮き城のまち行田少年の主張大会」事業計画・予算(案)について
 - ハ 「読書推進実行委員会」事業計画・予算(案)について
 - 3 評議員辞任の件について
 - 4 評議員選任の件について
- 報告事項
- 委員会構成改訂の件、新入会員承認の件、事務局日就業日程変更の件について議決報告があった
- 以上慎重に審議され、承認された

2 教育奨励事業

- (1) 進脩塾活動
- ① 公開講座
- 藩校教育を現代に活かす
「朗唱まつり」
- 日時 平成二十九年二月二十六日(日)
午後二時～午後四時三〇分

- 会場 行田市商工センター 「みらい」
- 「論語・漢詩」素読 老本幼稚園々児 二十五名
- 「論語・漢詩」素読 忍藩子ども塾 々々生 三十五名 埼玉小学校児童 九十名
- 「琵琶行」朗唱 東京天眼寺親子素読教室生徒 伊東知穂
- 「土規」素読 進脩塾々々生(一般成人市民) 二十八名
- 記念講演「志を立てる」
- 講師 荒井 桂 先生(公財郷学研究所・安岡正篤記念館副理事長兼所長)
- 受講者 三五〇名
- ② 定例講座
- | | |
|--------|--------|
| 四月「孟子」 | 荒井 桂先生 |
| 五月「孟子」 | 荒井 桂先生 |
| 七月「孟子」 | 荒井 桂先生 |
| 九月「孟子」 | 荒井 桂先生 |
| 十月「孟子」 | 荒井 桂先生 |
| 三月「孟子」 | 荒井 桂先生 |
- 内容 進脩塾の目的、講義、受講者の感想、今日の論語から
- *行田ケーブルテレビにて放映
- ③ 忍藩子ども塾素読教室の開催
- 日時 毎月第一、第二、第三土曜日
午前九時～午前十二時
- 場所 行田市郷土博物館講座室
- 受講者 行田市内在住の小学生 五〇名

指導員 田代敬二・奥田七寿・川田隆生
内 容 論語・漢詩の素読学習

④ 東京支部素読教室開催

日 時 毎月第二土曜日
午後二時三〇分～午後三時三〇分

場 所 天眼寺（東京上野）
受講者 天眼寺関係者 一〇名
講 師 田代敬二・川田隆生
内 容 論語・漢詩の素読教室

⑤ 漢文検定試験の実施

日 時 第一回 平成二十六年十月十五日(土)
第二回 平成二十九年一月二十一日(土)

午前九時三十分～午前十二時

場 所 行田市郷土博物館講座室
受験者 第一回 二十七名（寺子屋編・藩校編）
第二回 二十五名（寺子屋編・藩校編）

⑥ 出前出張授業

対 象 行田市立埼玉小学校全学年
日 時 毎週月曜日
午前八時一〇分～午前八時三〇分

指導員 田代敬二・奥田七寿
内 容 論語・漢詩の学習

⑦ 出前出張素読教室

日 時 平成二十九年一月・二月（十回）
午後二時十五分～午後二時四十五分

場 所 老本幼稚園
指導員 田代敬二・奥田七寿
内 容 論語・漢詩（朗唱まつり発表向）

(2) 「第三十一回・浮城のまち行田少年の主張大会」優秀者表彰

日 時 平成二十八年十一月十二日(土)
午後一時十五分～午後四時三〇分

場 所 行田教育文化センター「みらい」文化ホール
応募者 市内小・中学校児童生徒五三名
発表者 二十七名 鈴木副会長より記念品を贈呈した

(3) 読書推進実行委員会

第十四回読書推進学習会

映画上映会「じんじん」

日 時 平成二十九年三月四日(土)
午後一時三十分～午後四時

場 所 行田市中央公民館二階
映像ホール

受講者 八十八名

3 会報73号の発行

会報七十三号を平成二十九年一月

一日に発行
全会員・市内各小・中・高校、幼稚園、保育園及び素読教室関係者に配布

4 第十四回全国藩校サミット丸亀大会への参加

日 時 平成二十八年十一月二十日(土)～二十七日(日)
場 所 オークラホテル丸亀・丸亀市民会館
参加者 松平忠昌会長以下十四名

5 慶 弔

① 叙勲・褒章受章

村山 吉廣 様
平成二十八年十一月三日
瑞宝中綬章を受章
興 淳明 様
平成二十八年十一月三日
旭日小授章を受章

小川 雅以 様
埼玉県地方自治功労賞商工部門を受章

② お悔やみ申し上げます

清水 義夫 様
(平成二十九年二月十七日ご逝去)
吉田 寿夫 様
(平成二十九年二月二十七日ご逝去)

6 会員増強対策

新入会者紹介（入会順）
紹介者（世川祐多）
・三上 洋 様

秩父市荒川上田野

陶芸家

紹介者（世川祐多）

・世川 進 様

墨田区両国

(株)たくみ 監査役

紹介者（小川雅以）

・松本 太郎 様

練馬区光が丘

元NHK放送博物館館長

紹介者（田代克太郎）

・岩佐 博之 様

熊谷市宮町

元東毛ガンセンター薬剤部長

紹介者（矢澤大和）

・時田 忠彦 様

行田市忍

(有)トキタ セブンイレブン行

田向町店

・赤松 明 様

相模原市緑区

ものづくり大学学長

紹介者（世川祐多）

・平井 武夫 様

新座市新堀

(株)シンサー代表取締役会長

紹介者（矢澤大和）

・石渡 健司 様

鴻巣市北根

(株)イシワタ 会長

6 総会員数

二二七名
(平成二十九年三月三十一日現在)

法人名：公益財団法人 忍郷友会

事業名：事業全体

自 平成 28 年 4 月 1 日
至 平成 29 年 3 月 31 日 決算

収支計算書

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
① 基本財産運用収入			
基本財産配当金収入	100,000	129,421	29,421
② 会費収入			
正会員会費収入	1,950,000	2,265,000	315,000
③ 事業収入			
総会事業収入	1,180,000	977,000	△ 203,000
進脩塾事業収入	840,000	620,100	△ 219,900
藩校サミット事業収入	0	428,780	428,780
④ 寄付金収入	1,000,000	1,000,000	0
⑤ 雑収入	0	405,041	405,041
⑥ 他会計からの繰入金収入			
積立基金取崩収入	0	0	0
事業活動収入計	5,070,000	5,825,342	755,342
2. 事業活動支出			
① 事業費支出	3,112,000	3,499,215	387,212
進脩塾事業支出	952,000	907,717	△ 44,283
少年の主張大会支援事業支出	330,000	361,216	31,216
読書推進支援事業支出	230,000	101,554	△ 128,446
藩校サミット事業支出	150,000	820,236	670,236
広報発行事業支出	250,000	259,600	9,600
その他の公益事業支出	0	0	0
総会事業支出	1,200,000	1,048,892	△ 151,108
その他の収益事業支出	0	0	0
② 管理費支出	1,890,000	1,755,121	△ 134,879
事務職員給料支出	840,000	505,679	△ 334,321
事務所賃借料支出	360,000	360,000	0
会議費支出	140,000	17,250	△ 122,750
旅費交通費支出	20,000	0	△ 20,000
通信運搬費支出	260,000	237,528	△ 22,472
消耗品費支出	70,000	178,131	108,131
租税公課支出	0	0	0
慶弔費支出	50,000	25,000	△ 25,000
雑支出	100,000	269,533	169,533
ホームページ維持費	50,000	162,000	112,000
その他の管理費支出	0	0	0
事業活動支出計	5,002,000	5,254,336	252,336
事業活動収支差額	68,000	571,006	503,006
II 投資活動収支の部	0	0	0
III 財務活動収支の部	0	0	0
IV 予備費支出	68,000	0	△ 68,000
当期収支差額	0	571,006	571,006
前期繰越収支差額	2,440,000	4,295,130	1,855,130
次期繰越収支差額	2,440,000	4,866,136	2,426,136

(注) 予備費 使用せず

財産目録

(単位：円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	
現金手許有高	57,292
普通預金	805,574
埼玉りそな銀行 行田支店	4187540
埼玉りそな銀行 行田支店	2,584,580
郵便貯金	1,698,690
流動資産合計	5,146,136
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
投資有価証券	6,565,864
基本財産合計	6,565,864
(2) 特定資産	0
(3) その他固定資産	0
固定資産合計	6,565,864
資産合計	11,712,000
II 負債の部	
1. 流動負債	0
未払金	280,000
流動負債合計	280,000
負債合計	280,000
正味財産	11,432,000

有価証券の内訳

内訳： 東京電力株式 1,983株 (内登録株 19株)
東京ガス株式 11,254株

支出の部の内訳書

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
事業費			
(進 脩 塾)	952,000	907,717	△ 44,283
(少年の主張支援)	330,000	361,216	31,216
(読書推進支援)	230,000	101,554	△ 128,446
(藩校サミット支援)	150,000	820,236	670,236
(広 報 発 行)	250,000	259,600	9,600
(その他の公益事業)	0	0	0
(総 会 費 用)	1,200,000	1,048,892	△ 151,108
小 計	3,112,000	3,499,215	387,215
管理費			
(事 務 職 員 給 与)	840,000	505,679	△ 334,321
(事 務 所 賃 借 費)	360,000	360,000	0
(会 議 費)	140,000	17,250	△ 122,750
(交 通 費)	20,000	0	△ 20,000
(通 信 運 搬 費)	260,000	237,528	△ 22,472
(消 耗 品 費)	70,000	178,131	108,131
(租 税 公 課)	0	0	0
(慶 弔 費)	50,000	25,000	△ 25,000
(ホームページ維持費)	50,000	162,000	112,000
(雑 費)	100,000	269,533	169,533
小 計	1,890,000	1,755,121	△ 134,879
積立基金取崩支出	0	0	0
予備費	68,000	0	△ 68,000
合 計	5,070,000	5,254,336	184,336

貸借対照表

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	57,292	109,748	△ 52,456
普通預金	3,390,154	4,132,762	△ 742,608
郵便貯金	1,698,690	143,120	1,555,570
流動資産合計	5,146,136	4,385,630	760,506
2. 固定資産			
(1)基本財産			
投資有価証券	6,565,864	7,132,450	△ 566,586
(2)特定資産	0	0	0
(3)その他固定資産	0	0	0
固定資産合計	6,565,864	7,132,450	△ 566,586
資産合計	11,712,000	11,518,080	193,920
II 負債の部			
未払金	28,000	75,500	204,500
預り金	0	15,000	△ 15,000
負債合計	280,000	90,500	189,500
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
2. 一般正味財産	11,432,000	11,427,580	4,420
(うち基本財産への充当額)	(6,565,864)	(7,132,450)	
正味財産合計	11,432,000	11,427,580	4,420
負債及び正味財産合計	11,712,000	11,518,080	193,920

平成二十九年 度
(公財) 忍郷友会役員名簿

[illegible]

評議員	八木原 保
評議員	横川 福治
評議員	渡辺 久記
幹事	
幹事 長	中川 邦明
副幹事 長	大澤 誠
副幹事 長	渡邊 久記
幹事	新井 誠
幹事	五十幡和彦
幹事	川島 亨
幹事	瀬山 文孝
幹事	長島 豊
幹事	長谷川雅敏
幹事	松岡 由浩

(平成二十九年十二月一日現在)



小山商事株式会社

会 長

小 山 博

社 長

小 山 喜一郎

本 社

行田市埼玉三三五—一

TEL〇四八—五五九—四一二(代)

リカリツシュ旭町店

TEL〇四八—五五六—三七二—

リカリツシュ太井店(熊谷)

TEL〇四八—五九九—四七一—

宝くじ売場持田店

TEL〇四八—五五三—四七一—

民法(債権関係)・刑法など重要改正もこの一冊に

ポケット六法

【編集代表】

山下友信
宇賀克也

収録法令204件

平成30年版

定価 2000円(税込)

民法(債権関係)大改正
判例要約も改正後の条文に完全対応

有斐閣 判例六法 Professional

【編集代表】

山下友信
中田裕康
宇賀克也
中里実
長谷部恭男

平成30年版

定価 5940円(税込)

判例付き携帯六法の決定版
民法(債権関係)の大改正に対応!

有斐閣 判例六法

【編集代表】

中田裕康
長谷部恭男

平成30年版

定価 2900円(税込)

since 1877

代表取締役社長 江草貞治

株式会社 有斐閣

東京都千代田区神田神保町2-17

代表 03-3264-1312 FAX 03-3264-5030

平成二十九年 会員名簿

法人会員

(株)リノン
(株)シンセイ開発
(有)羽生モーターズスクール
医療法人 葦の会
(株)行田ガーデン
(株)碓井測研
(株)有斐閣
税理士法人大久保会計
大野建設(株)
小川工業(株)
公認会計士
(有)中央百貨店
(株)ケイマス
ガクヤ(株)
東旭(株)
小山商事(株)
(株)清水アーネット
ベルヴィアイトピア
(株)協同バス
税理士法人森経理事務所
(株)ファイブイズホーム
(株)八木橋百貨店
(株)ジム
(資)青美矢沢商店
(株)サンワックス
山本商事(株)
山本食品工業(株)
(株)ヨコカワ

新井 啓介
新井 誠
五十幡 和彦
石井 義則
稲垣 功一
碓井 勝也
江草 忠敬
大久保 毅
大野 年司
小川 雅以
奥貫 健一
川辺 秀夫
黒渕 陽夫
小池 俊輔
小菅 克祥
小山 博
清水 龍男
清水 利一
鈴木 秀憲
府川 吉延
細井 保雄
八木橋 宏貴
八木原 保
矢澤 大和
山田 晃
山本 憲作
山本 正幸
横川 福治

正会員

(株)十萬石ふくさや
渡辺(株)

青柳 憲助
阿部 秀二郎
新井 宏幸
飯島 千裕
石井 直彦
伊藤 秀一
今津利之助
丑久保紀美
及川 礼子
大嶋 康三
小川 秀樹
小澤 光太郎
折井 幸子
柿沼 京子
粕谷 悦昭
加藤 一夫
鹿山 高彦
川鍋 和史
岸田 昌久
国本 哲秀
久保田 春明
小久保和子
小島 敏男
小林 義和
小山 喜一郎
斎藤 哲夫
島崎 政敏
杉田 禮三
鈴木 スイ子
赤松 明
新井 重人
新井 孝義
飯田 芳幸
石渡 健司
伊藤 和江
岩佐 博之
江原 史郎
大河原 梅夫
大谷 文孝
興 淳明
小澤 誠邦
香川 宏行
柿沼 貴志
片桐 章雄
加藤 誠一
川島 清実
川野 健人
木嶋 清
倉田 君子
栗原 穂子
木暮 照子
小菅 恵一
小林 友明
斎藤 慶一
坂田 敬子
清水 孝男
須郷 隆
鈴木 敬一郎
秋山 佳子
新井 教弘
安部 節子
井桁 浄継
伊東 大輔
今井 福司
岩田 讓啓
江森 孝至
大澤 則之
岡田 則之
小倉 佐江子
小幡 和佑
柿沼 貴代
風間 敏弘
加藤 元三
鴨田 武
川田 隆生
岸 誠太郎
木村 忠夫
倉田 耕市
小池 利昌
小島 成一
小林 一好
小松 和弘
斎藤 準一
坂本 光代
清水 威男
鈴木 佳代子
鈴木 茂

横田 康介
渡邊 久記

鈴木 淳一
世川 進
関根 俊一
田島 博夫
田中 利幸
戸ヶ崎 直司
中川 忠昭
中西 忠夫
中山 孝文
野口 啓造
橋本 祐一
長谷川 盛雄
羽鳥 弘
平井 ユリ枝
藤田 敬
細谷 茂樹
松井 正俊
松本 太郎
ミカミ ヒロシ
武笠 勇
梁瀬 里司
吉田 幸一
渡辺 幸子
島田 淳一
新井 弘美
小森 谷賢一
山口 修
金田 義則
(埼玉県立進脩館高校 校長)
(埼玉りそな銀行行田支店長)
(武蔵野銀行 行田支店長)
(埼玉県信用金庫行田支店長)
(群馬銀行行田支店長)
鈴木 貞二郎
世川 祐多
高橋 弘行
田島 正雄
津田 馨
時田 忠彦
長島 康雄
長野 武俊
新島 璋記
野口 浩一
蓮見 牧子
畠山 貞子
半田 太
平社 輝男
古市 恒裕
堀 秀雄
松平 由美子
松本 安夫
水谷 良二
最上 絹江
山田 映子
吉田 豊彦
渡辺 邦道
綿貫 守男
鈴木 寿子
関田 悦男
滝澤 布沙
田代 克太郎
葛 久子
富田 久雄
長島 豊
中村 博行
根岸 友憲
野村 正幸
長谷川 昌夫
畠山 恒雄
平井 武夫
藤倉 武
古沢 勇治
町田 祥子
松野 史郎
丸山 和雄
水野 武久
森 安正
横田 保良
若松 良一

(平成二十九年十二月一日現在)

平成二十九年 事業行事経過メモ

1 会 議

(一) 総 会

① 定時総会開催

(会務報告、講演会、懇親会)

日 時 平成二十九年五月二十二日(月)

参加者 五十二名

午後三時～午後七時三〇分

会 場 ベルヴィアイトピア

来 賓

行田市議会議長

松本 安夫 様

行田商工会議所名誉会頭

鈴木 秀憲 様

ものつくり大学学長

赤松 明 様

行田ロータリークラブ会長

大野 年司 様



行田さくらロータリークラブ会長代理

五十幡和彦 様

(公社) 行田青年会議所理事長

佐野 友昭 様

(一社) 漢字文化振興協会事務局長

白石 宗靖 様

埼玉浮き城プロバスケットボールクラブ会長

須郷 隆 様

郷土博物館友の会会長

清水 威男 様

特別招待者

小池ミチ子 様

講演会講師

鈴木紀三雄 様

松平忠昌議長の議事進行により、平成二十八年年度の事業および決算、監査について報告を行なった。

記念講演

講 師

鈴木 紀三雄 氏

行田市郷土博物館副館長

演題 「戦国から太平の世へ」

徳川家と奥平松平家」

(二) 役員会

① 理事・監事会

日 時 平成二十九年四月二十六日(水)

午後一時三〇分～午後四時三〇分

場 所 公益財団法人忍郷友会本部

事務所

審議事項

1 平成二十八年事業報告書

(案) について審議

2 平成二十八年収支決算書

(案) について

3 定時総会・講演会・懇親会ご

案内(案) について

4 役員会・総会・講演会・懇親

会 タイムテーブル(案) に

ついて

5 総会・講演会・懇親会ご招待

者リスト(案) について

6 読書推進実行委員会・広報委

員会、委員の承認について

7 新入会員承認の件について

8 役員改選の件について

② 評議員会

日 時 平成二十九年五月二十二日(月)

午後一時三〇分～二時四〇分

会 場 ベルヴィアイトピア

審議事項

1 平成二十八年事業報告書に

ついて

2 平成二十八年収支決算書に

ついて

3 評議員の選任及び辞任の承認

を求める件について

4 理事・監事の任期満了につき

新規選任の承認を求める件に

ついて

③ 臨時理事会

日 時 平成二十九年五月二十二日(月)

午後二時五〇分～三時

会 場 ベルヴィアイトピア

審議事項

1 会長及び副会長選定の件

④ 理事・監事会

日 時 平成二十九年十月四日(月)

午後一時三〇分～午後四時

三〇分

会 場 公益財団法人忍郷友会本部

事務所

審議事項

1 平成三十年度事業計画(案)

について

2 平成三十年度予算(案) に

ついて

3 新入会員承認の件

4 予算総会及び賀正会承認の件

5 その他

⑤ 評議員会

日 時 平成二十九年十一月九日(水)

午後三時～午後四時三十分

会 場 行田商工センター四〇二号室

審議事項

1 平成三十年度事業計画について

2 平成三十年度予算について

3 新入会員承認の件

4 予算総会及び賀正会承認の件

5 その他

2 教育奨励事業

(1) 進脩塾活動

① 定例講座

日 時 毎月第四土曜日

午後二時～午後四時

会 場 行田商工センター四〇三
号会議室

講 師	荒井 桂 先生(公財)
	郷学研究所・安岡正篤記念館副理事長兼所長)
四 月	日本の情緒「三味線と都々逸を楽しむ会」井上啓子先生
五 月	般若心経講義 福島 伸悦先生
九 月	「孟子」荒井 桂 先生
十 月	「孟子」荒井 桂 先生
十一 月	「孟子」荒井 桂 先生
内 容	進脩塾の目的、講義、受講者の感想、今日の論語から
	*行田ケーブルテレビにて放映
②忍藩子ども塾素読教室の開催	
日 時	毎月第一、第二、第三土曜日
	午前九時～午前十二時
場 所	行田市郷土博物館講座室
受講者	行田市内在住の小学生五〇名
講 師	田代敬二・奥田七寿・川田隆生
内 容	論語・漢詩の素読学習
③東京支部素読教室開催	
日 時	毎月二回土曜日
	午後二時三〇分～午後三時三〇分
場 所	天眼寺(東京上野)
受講者	天眼寺関係者 一〇名
講 師	田代敬二・川田隆生
内 容	論語・漢詩の素読教室
④漢文検定試験の実施	
日 時	平成二十九年十一月十八日(土)

午前九時三〇分～午前十二時	場 所	行田市郷土博物館講座室
	受験者	二十三名（寺子屋の部初級、中級、上級）
⑤出前出張授業		
対 象	行田市立埼玉小学校全学年	
日 時	毎週水曜日	
	午前八時一〇分～午前八時三〇分	
講 師	田代敬二、奥田七寿	
内 容	論語・漢詩の学習	
(2)「第三二回 浮き城のまち行田少年の主張大会」優秀者表彰		
日 時	平成二十九年十一月十一日(土)	
	午後一時～午後四時三〇分	
場 所	行田教育文化センター「みらい」文化ホール	
応募者	市内小・中学校児童生徒	
発表者	応募総数 九三九点	
	二十四名 松平忠昌会長より記念品を贈呈した	
(3) 読書推進実行委員会		
	第十五回記念講演会開催予定	
日 時	平野啓子氏から読書の心を学ぶ	
	平成二十九年三月三日(土)	
	午後一時三〇分～午後三時三〇分	
場 所	ベルヴィアイトピア	
講 師	平野啓子先生	
受講者	三〇〇名（予定）	

3 会報74号の発行	
	会報七十四号を平成三十年一月一日に発行
	全会員、市内各小、中、高校、幼稚園、保育園及び素読教室関係者に配布
4 慶 弔	
①叙勲・褒章受章	
	江利川 毅 様
	平成二十九年四月二十九日
	瑞宝大綬章を受章
②お悔み申し上げます	
	野口 昭夫 様
	(平成二十九年六月三日)逝去)
	根岸 仁司 様
	(平成二十九年十一月十九日)逝去)
5 会員増強対策	
	新入会者紹介(敬称略 入会順)
	紹介者(鈴木秀憲)
	・鈴木 佳代子 様
	・鴻巣市赤見台 様
	紹介者(田代敬二)
	・伊東 大輔 様
	・文京区小日向 様
	・BNYメロン・アセット・マ
	・ネジメント・ジャパン(株)
	紹介者(鈴木秀憲)
	・久保田 春明 様
	・行田市須加 様
	・埼玉県自動車整備振興会
	紹介者(世川祐多)
	・松野 史郎 様
	・港区赤坂 様
	(株)エム・テック

紹介者(田代 克太郎)	
・関田 悦男 様	
・行田市市長野	
6、予定	
○市民公開講座	
	藩校教育を現代に活かす
	「朗唱まつり」
日 時	平成三十年二月十日(日)
場 所	行田市教育文化センター「みらい」
○第十五回記念公演会	
	語り部 かたりすと 平野啓子
	文化講演会
	「語り」と「朗読」と「読み聞かせ」
	を上演を交えながら
日 時	平成三十年三月三日(土)
場 所	ベルヴィアイトピア
	シャンポール
○忍歴史塾の開催(全三回講座)	
	「第一回忍藩松平家の歴史を学ぶ」
日 時	平成三十年三月二十四日(土)
場 所	行田市商工センター四〇一
講 師	松平忠昌氏
	(忍藩松平家第十六代当主)
○第十六回全国藩校サミット	
	舞鶴大会開催
	平成三十年九月二十九日(土)
	三〇日(日)

第三十二回 浮き城のまち行田

「少年の主張大会」

少年の主張 委員長 瀬山 文孝

平成二十九年十一月十一日(土)十三時より行田市教育文化センター「みらい」ホールにて、第三十二回浮き城のまち行田「少年の主張大会」が開催されました。

この大会は市内の小・中学校の代表者が日常生活を通して考えていることを市民に発表するもので、青少年健全育成を図るために、行田市教育委員会・青少年育成行田市民会議



が主催し、(公財)忍郷友会が後援となり毎年開催しています。昭和六十一年度の初回から今年まで三十二回目になります。今回の発表者は市内小学校六年生十六名と中学校三年生が八名の合計二十七名の児童生徒が参加しました。また今回は『日本遺産記念』として児童の紙芝居発表と、昨年に続き中学生の北埼玉英語弁論大会の代表者による英語のスピーチも発表されました。

今年のテーマは家族・あいさつ・言葉・将来の夢・日常生活の中で感じること・など多岐にわたるテーマで力強く発表していただきました。主催者を代表して行田市教育委員会教育長の森郁子さまのご挨拶があり、来賓挨拶では当財団の松平会長よりご挨拶をいただきました。松平会長からは、「志」「学」「愛」「感謝」の四つのキーワードをお話しいただきました。人は生まれて来る時は何の為に生まれて来たのかは分か

りにくいものですが、これから何ができるか考え、その中で志を立てて下さい。学びは、自分が何のために何が出来たのか考え、それを実現するには何を学ぶのが重要で。私の考える愛の一つに距離感があり、す、出会い、思いやる心、お互いの絆を大事にして豊かな感性をはぐくんでつくる愛です。最後の感謝は、多くの人たちの努力によって運営されているこの大会に、先生や親御さんたちに支えられながらチャレンジ出来ることに感謝の気持ちを持つてほしいと思います。とのご挨拶をいただきました。

本年度より優秀者は即日発表となり表彰状が授与されました。受賞者は、教育長賞・中央小学校 菅原陸さん、太田東小学校 池田好花さん、

行田行田中学校 小川美輝さん。忍郷友会長賞 西小学校 向井玄真さん、南河原小学校 吉野雄飛さん、忍中学校 呉 知香さん、以上6名が受賞されました。また、発表者全員に忍郷友会より「広辞苑」を授与いたしました。

なお、優秀者の内小学生の一人が次回賀正会にて発表していただきますのでどうぞお楽しみにしてください。

当会からは松平会長・鈴木副会長・渡辺理事、橋本理事・奥田評議員・須郷評議員・増田事務局員の参加を頂きました。

来年の三十三回目の大会にも多くの会員の参加をいただければと思っています。是非、子供達の生の発表をお聞き下さい。

忍郷友会会長賞三作品を紹介します

忍郷友会長賞 小学校の部

自由を奪われた辛さ

行田市立南河原小学校六年

吉野 雄飛

みなさん、自由を奪われた時のことを想像してみてください。たぶんほとんどの人が分からないと思います。

す。ぼくのおばあちゃんは、二年半前に、脳梗塞で倒れてしまいました。



なんとか一命はとりとめたのですが、その後遺症で全身麻痺になり、寝たきりで介護が必要な体になってしまいました。

会話すらできないおばあちゃんですが、「あー」と言ったり、上下左右に頭を動かしたりすることならできます。その微かな声の出し方や、頭の動きで、何を伝えたいのかをこちらが判断するしかありません。それはとても難しいことです。でも言いたいことをうまく伝えられないおばあちゃんは、聞き取れずに悩むばかりなんかも、何倍も辛いです。体の面でもそうです。ぼくたちのように、体を自由に動かすこともできません。普段どこかへ行く時には、車いすに乗って移動しなければなりません。車いすにのせる時にも、一人では乗れないので、背中にバスタオルをしいて、頭側と足側に分かれて、二人がかりで持ち上げに乗せます。いつもはお父さんとお

母さんで乗せますが、どちらかがない時には、ぼくが手伝います。力もあるし、とても大変です。でもこのような体の面でも、手伝うぼくたちなんかも、何倍も何十倍もおばあちゃんは辛いと思うのです。

今までできていたことが、できなくなる不自由さは、そういう体になった人にしか分かりません。そしてもう一つ覚えておいてほしいのは、ぼくのおばあちゃんを含め、誰もが不自由になりたくなかった訳ではないのです。迷惑をかけたくて、かけている訳ではないのです。ぼくのおばあちゃんのように突然の病気や事故だったり、生まれつき障害であったり理由は様々ですが、同じ人間として、不自由で困っている人がいたら、助けてあげるのが当たり前だとぼくは思います。

食べる、話す、動く、勉強するなど、当たり前すぎて気にもしたことがないと思いますが、その自由を大切にしてください。今となりにいる人との会話を大切にしてください。楽しんでください。ぼくはおばあちゃんのできない分まで、ぼくのできることを精いっぱい頑張つて、自由を大切にしていきたいと思います。そして不自由の辛さと自由の大切さを教えてくれたおばあちゃんに感謝します。

忍郷友会長賞 小学校の部

足袋蔵のまち行田を引き継ぐ

行田市立西小学校六年

向井 玄 真

皆さんは、行田の足袋蔵を知っていますか。

今年の四月、県内で初めて「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」が日本遺産に選ばれました。行田を愛する人々の想いが伝わった瞬間です。ぼくはうれしくて思わず、「やったあ」と叫んでしまいました。

行田は、かつて足袋の生産量が日本一だった時代があり、足袋を保管する倉庫として、足袋蔵がたくさん建てられました。そして今も残っています。ぼくは、ぎょうだ足袋蔵ネットワークが主催する一泊二日の昔体験セミナーに参加し、足袋蔵につ

いて知ることができました。

足袋とくらしの博物館では、職人さんが足袋をつくっていました。その蔵でぼくは、足袋の型抜きとミシン縫いを体験しました。型抜きは機械の音が大きくてびっくりしましたが、きれいに型がとれたので気持ちよかったです。職人さんは、布をむだなく使っていたのでとても感心しました。昔は縫った足袋を蔵にたくさん保管しておいたことを考えると、行田の足袋づくりが盛んだったことが、よくわかりました。

また、他の蔵では、うどん打ちもしました。ゆであがったうどんは、蔵の中で食べたせいか、よけいに美味しく感じました。

夜は影絵大会を行いました。ぼくのグループは、海の生き物や虫などをテーマに考え、深海魚、たこ、トンボ、蝶をつくりました。蔵の中では声が響き、家とは違う独特な感じがしました。寝るときは蔵の中に蚊帳をつりました。蚊帳をつつて寝るのは初めてだったので、昔にタイム





スリップしたようで、足袋蔵の歴史を感じる夜になりました。

ぼくは、このように足袋蔵での体験とおして、蔵をとて身近に感じることができました。現在パン屋やそば屋になっていく蔵もあり、倉庫以外の姿で、活躍しています。また、蔵めぐりなどで、行田の蔵をア

忍郷友会長賞 中学校の部

「お腹が空いた」と言えること

行田市立忍中学校三年

呉^{くれ} 知^{とも} 香^か

「お腹が空いた。」

私は普段、この一言をよく耳にするし、この一言をよく発します。私自身が動物として生きている以上、お腹が空くことなど日常茶飯事なのですが、ふと私は思いました。

「どうしてお腹が空いたと感ずるの
だろう」

たしかにこの疑問は、理科や保健の授業をしっかりと聞いていれば誰でも分かることかもしれない。しかし私は、そういった点で疑問に思ったのではなく、何故、当たり前のように毎日お腹が空くのだろう、と突然、家を出される夕食を見て思ったのです。あなたは、考えたことがありますか。どうして、当たり前のようにお腹が空くのか。

私はすぐには答えを出せませんでした。少し日が経ったのちに出た答え。それは、「当たり前前のようにお

腹いっぱいと感じられるから。」毎日何度もお腹が空くのは、毎日何度も満腹感を得ているからだと思なり

に解釈しました。

つまり、何を伝えたいのか。簡単に言ってしまうと、私も、あなたも、皆幸せだ、ということなんです。お腹いっぱい食べられる私たち。それとは裏腹に、常にお腹が空いていて、もうお腹が空いた、という感覚すら忘れてしまった餓えに苦しむ人達。どちらも同じ空腹を感じているのに、まるで重みが違います。

私は何度か、餓えに苦しむ人達をテレビで観たことがあります。その人達は、「お腹が空いた」と声に出すことすら苦しく、困難な状態にあるのに対し、私やあなた、その周囲の皆は、目の前に貴重である生きるための食べ物があったとしても、苦手だったら平気で「いらない」と捨ててしまします。私は最近、その残酷さに気づきました。こんなにも恵まれた環境が、当たり前なことだと勘違いしていた、ということに。そして私たちは言うのです。当たり前前のように、

「お腹が空いた。」

と。

気づかされたこのときから、私は食べ物としっかり向き合おうと決めました。それと同時に、「いただき

ます。」「ごちそうさまでした。」の言葉一つにも、しっかり想いを込めるようになりました。魚や動物は、一部が人間の食用として育てられることで生涯を終えていき、植物は、食卓に出るまで数えきれない多くの人たちのたくさんの苦勞がかかって、私たちのもとへ届いている。こう考えると、自然と苦手意識は無くなつていくものです。

今、あなたがどんな環境においてもらえているのか、一度考えてみてください。いや、二度、三度、ふとしたときに考えてみてください。きっと、同じ考えが浮かぶと思います。私も何度か考えてみましたが、やはり自分は幸せなのだとその都度感じています。でも、だからといって餓えに苦しむ人達を「可哀そう」で終わりにする気はありません。自分一人でも力になれそうなこと、受験が終わってからは取り組めそうなこと、そういった活動に少しでも関わりたいと思っています。

私のこの意見で、誰か一人でも心を動かしてくれれば、私はとても満足です。お腹が空くと感じられることを当たり前だとは思わず、大きな幸せであるということを忘れないで欲しいです。考え方一つで、あなたの人生観は大きく変わる、かもしれません。

読書推進運動について

読書推進実行委員長 須 郷 和 美

読書推進実行委員会に、委員として参加させて頂くようになって十年が経ちました。

行田の子供さん達に本を好きになつて欲しいとの願いから、読み聞かせボランティアの皆様と懇談会を開き、「どうしたら子供たちが興味を持ってくれるか」、お考えをお聞かせ頂くとともに意見交換をして参りました。

また、東京子ども図書館を見学した際には、「お話会の時間や場所はどうのように設定するのが良いのか」、「語り手は、どんな事に気を付けたらよいのか」等々、具体的な例を挙げて教えて頂き、読み聞かせボランティアの方々も大いに参考になった様です。



そして、「子供達の読書を推進して行く為には何が大切なのか？」を関係者一同が認識し、知識を共有する手立ての一つとして、これまで十四回の講演会を開催して参りました。

・第七回

「科学絵本と楽しく科学遊び」

・第十回

「読み聞かせから語りへ」

・第十三回

「読み聞かせ絵本の選び方」

等々

いろいろな角度からの講演会は、読み聞かせボランティアの皆様の更なるステップアップに繋がり、年々成果も上がって来たと共に思います。

・第十四回

「映画 じんじん」

行田市中央公民館二階（映像ホール）での初めての映画上映でした。いつもと趣が変わってとても良い企画でしたと皆さんから大変好評を得ました。

今回、第十五回（十五周年）の記念講演として、「平野啓子文化講演会」を開催する事になりました。

平野啓子先生は、何年前かに、行田ロータリークラブ主催による「中学生芸術劇場：走れメロス」を上演し、大きな感動を私達に与えて下さった方です。

平成三十年三月三日（土）ベルヴィアイトピアで開催する、この第十五回記念講演会に平野啓子先生を講師としてお迎え出来ます事は、読書推進実行委員会としても、また今まで受講して下さい下さった方々にとっても大

きな喜びと刺激になるものと思います。

この講演を機会に、ボランティアの皆様とともに子供達に読み聞かせの素晴らしさや大切さをしっかりと伝えて行きたいと思っています。必ずやお伝えできると信じています。

これからも地域の子供達の為に、何が出来るかを考えながら、読書推進に努めて行きたいと思っています。

語り部・かたりすと 平野啓子の文化講演

語りと朗読と 読み聞かせ

実演を交えながら

要事前申込
入場無料

定員 250名

●日時● 2018
3月3日（土）

●会場● ベルヴィアイトピア 3F シャンボール

〒361-0056 埼玉県行田市持田2792-1
TEL. 048-553-3770

平野啓子プロフィール

語り部・かたりすと
元[NHKニュースおはよう日本]キャスター
元東京都歴史文化財団(当時文化振興会)職員
大阪芸術大学芸術学部放送学科教授
武蔵野大学非常勤講師(伝統文化研究)
平成17年～20年に「行田市小学生芸術劇場」で「走れメロス」(太宰治)を上演

■受賞歴
1997年/第52回文化庁芸術祭大賞受賞
ギャラクシー賞奨励賞受賞
2003年/第24回松尾芭蕉賞優秀賞受賞
2008年/徳川徳川市民賞受賞
2010年/文化庁芸術賞

●日時● 2018
3月3日（土）

●会場● ベルヴィアイトピア 3F シャンボール

〒361-0056 埼玉県行田市持田2792-1
TEL. 048-553-3770

公益財団法人 忍郷友会 読書推進実行委員会第15回記念講演会

申し込み・参加希望の方は、忍郷友会事務局または宮崎書店行田店までお問い合わせください。

(公財)忍郷友会 事務局
TEL. 048-556-9000
FAX. 048-564-3020
（休館日）10:00～16:00
〒361-0073 埼玉県行田市南5-10 スーパー7ビル3F

宮崎書店 行田店
TEL. 048-554-6300
FAX. 048-553-7500
（休館日）営業時間 9:30～22:00
〒361-0056 埼玉県行田市持田964-1

主催：公益財団法人 忍郷友会 後援：行田市教育委員会・行田市教育協議会・行田市私立幼稚園連盟・行田市PTA連合会

- 15 -

進脩塾活動について



進脩塾主幹 田代 敬二

二十八年度より「朗唱まつり」・二十九年度よりHP「素読のすめ」が加わり六つの事業になりましたので順を追ってご報告申し上げます。

一 進脩塾古典講座(市民公開講座)
「人生いかに生きべきか」の課題の下に、古典「孟子」に道を求め、我を練磨し、我をつくる得がたい一刻を過ごしております。毎回三十名の参加者を得ておりますが、更なる同志の参加をお待ち致します。

日時 毎月第四土曜日 午後二時三十分～四時四十分まで
場所 行田市商工センター 会議室

内容

- (一) 素読「光明蔵」古詩・名文
- (二) 古典講座「孟子」

講師 荒井桂先生

忍藩子ども素読教室

奥田 七寿

平成十七年四月より論語・漢詩を主体とした素読教室として開塾し、その後平成二十三年度より行田市教育委員会との共催として「忍藩子ども素読教室」へと改称され、園児・小学生児童を中心に四十名程度の塾生が素読を行っています。一期生は大学生となりこれからの社会を支えるリーダーとして大きく羽ばたく存在になりました。

本年度より市立埼玉小学校の先代にあたる玉松堂という寺小屋にて使っていたという教本「三字経」が組み入れられ、更に充実した素読教室となりました。

(文責 小倉佐江子)

授業クラス

- 初級組 一初年度入塾性対象
- 中級①組 一入塾二年目対象
- 中級②組 一入塾三年目対象
- 上級組 一入塾四年目以上対象
- 教材 湯島聖堂漢文検定 寺小屋編(論語・漢詩)・藩校編(漢詩文)

大学・三字経

主な行事

(一) 開講式

行田市教育委員会的主催により、森郁子教育長様、荻原康弘郷土博物館長様、松平忠昌忍郷友会長のご祝辞・ご挨拶があり、新入生紹介、教科書授与、田代敬二進脩塾幹事より「素読について」、塾



生の素読披露等が行われました。

日時 平成二十九年六月三日
(土)午前九時三十分～
場所 行田市郷土博物館 講
座室

出席者 塾生児童・保護者・教
育委員会職員・進脩塾
指導員等 約八十名

(二) 湯島聖堂漢文検定試験

第一回 六月十七日(土)

受験者 上級一名・三
段一名

第二回 十一月十八日(土)

受験者 初級七名・中
級九名・上級六名・初
段一名



審査員として小林晴夫評議員・清水威夫会員に協力頂きました。

第三回 三月 予定

(三) 「朗唱まつり」素読発表に参加

平成三十年二月十日(土)予定

埼玉小学校の素読教室

川田 隆生

六年目を迎えた出前授業、論語・漢詩から三字経の素読が昨年九月より始まりました。埼玉小学校の前身である寺子屋玉松堂に教材として三字経がありました。三字経は、漢字三文字で一句、頭に入りやすく、言葉のリズムが取りやすく、印象に残りやすい構成です。志を持って小さい頃から学ぶ大切さを考える内容、現代にも通ずる教えであると、岡島校長のご尽力のもと、はにわの楽好・さきつ子の元気な声が県名発祥の地に響き渡っております。

ふるさと「埼玉」の伝統と文化を大切にする心の育成と子どもの人間



力を高めることに貢献できるものと確信しております。

天眼寺親子素読教室

東 瑞芳

老若男女、素読教室にお越しになる方々と共に机を並べております。

論語・漢詩の音読朗唱をひたすらに繰り返し、声に出し、耳で憶え、語意を学び、身に付けております。

授業のあと、教室に通われている英国紳士が、七言絶句の詩吟を披露してくれました。

節、抑揚の中に作者の喜怒哀楽、心の葛藤が浮かび上がり感動を覚えます。

素読教室が開講して間もなく七年、様々な場面で岐路に立った時、授業で学んだ先哲の言葉がよみがえりま



す。水到りて渠成るが如くを感じております。



子曰、老者安之、朋友信之、少者懷之

孔子先生と弟子の顔淵、子路との問答に出てくる言葉です。孔子先生が二人の弟子に志を問います。二人は志を述べ、師の志を尋ねます。

子曰、「お年寄りには安心されるように、友には信頼されるように、若者には、慕われるようになりたい」と私たちは、多くの『縁』の中に生かされております。

人の喜びを我が喜びとし、人の悲しみを我が悲しみと思える心を育んでいきたいと思います。

ホームページ

「素読のすすめ」

遠藤 初枝

本年八月より、忍郷友会のホームページに「素読のすすめ」が加わりました。このページは素読の魅力として、天保年間に出版された「童子通」にあるように、「素読は語路、すなわち覚えやすく、注釈は見ずとも度々読むうちには、十に一つもうすうすと義理（意味）の分かるようにあらせたきものなり・それにはなるだけ訓を勝たせて読むべきなり。」を現在に活かして普及させたい考えの下に開設しました。

内容は、身近な四字熟語から連想される名詩文を訪ね、紹介するという形で、素読に親しんでもらおうとするものです。

四字熟語は一、志を立てる、二、勉強・努力、三、正しく生きる、四、友情、五、故事、歴史に学ぶ、六、自らの戒めとする。七、自然と人生とし、最後に挑戦して暗記して欲しい詩文を付け加えます。

毎月一日と十五日に更新致しますので各位には、このページを閲覧下さいまして、話題にして頂けたら幸いです。

ホームページアドレス

http://oshi-goyukukai.or.jp/sodoku_01_08.php

鏡開き市民公開講座

第一回「朗唱まつり」開催

素読のまち・行田市を目指して

日時 二十九年二月二十六日(土)
会場 行田市教育文化センター
「みらい」ホール

豊かな心、情緒の育成、人格の形成を目指して、日頃から論語、漢詩を勉強している幼稚園児、小学生、中学生そして進脩塾で東洋思想を学習している大人まで、「みらい」ホールいっぱい市民のみなさんの前で日頃の成果を発表しました。



老本幼稚園児二十五名の堂々とした論語・漢詩の素読発表、小学生の部では忍藩子ども塾、さきたま小学校児童合計百十五名による論語・漢詩の大朗唱など会場の皆さんからたくさん賞賛の声を頂きました。



会場で見えていた漢字文化振興協会白石事務局長は「素晴らしい発表会であった。全国的に見てもこのように継続的に行われているのは非常に珍しい。忍藩の城下町として格調高い奥深さを感じる。」との講評を頂きました。

「お知らせ」
古典に学び・古典に親しむ
「第2回朗唱まつり」は
三十年二月十日に開催されます。



人にやさしい
快適な環境づくりをめざして...

産業資材販売
給排水空調衛生設備工事
エクステリア・景観整備工事

株式会社 清水アーネット

第十五回全国藩校サミット金沢大会に参加して

平井 武 夫

四〇年ぶりに降りた金沢駅は晴天に輝いていた。一昨年に北陸新幹線が乗り入れ、活気に溢れた駅周辺の街並みは隔世の感があった。久しぶりの金沢訪問と、藩校サミット初参加の喜びと緊張で、胸の内はワクワク感に溢れていた。

新幹線ホームから兼六園口(東口)に出ると、巨大な「もてなしドーム」が目飛び込んで来る。日本は勿論

のこと、全世界からの観光客の〴〵もてなしと、歓迎の心が込められたゲートである。

その右隣りの近代建築の建物がサミット会場の石川県立音楽堂である。そこから、大通りを挟んで、イベントの第一日、九月三〇日(土)午前中の「藩校会議」「藩主会議」夜の「交流会」の会場「ホテル日航金沢」のタワービルが青い天空に聳えている。行事は全てこの金沢駅周辺で行われたのである。

藩校サミット

第一日目は、「立礼呈茶」の野点コーナーが参加者を温かく迎えてくれた。旅の疲れを癒す〴〵もてなしである。

メイン会場の邦楽ホール。さすが金沢!の煌びやかさと明るさに圧倒された。壇上に並ぶ三〇人の旧藩当主。東北から九州の「殿様」のお姿



は圧巻であった。お一人お一人が紹介される。時代を駆け抜けた歴史の舞台が眼前に駆け巡る。徳川宗家十八代当主・徳川恒孝(つねなり)氏が代表して挨拶に立たれた。開催地の加賀藩、前田家の十八代当主・前田利祐(としやす)氏の姿も見える。初めて見るリアルな歴史のパノラマに、私は興奮と感動を禁じ得なかった。

特に、徳川氏、前田氏、東京大学史料編纂所の教授 山本博文氏による「記念鼎談(ていだん)」は、歴史好きの私には、これに勝るものはなく、心躍る思いで聞き入った。山本氏は、NHK・Eテレ東京の「先人たちの底力―知恵泉」のTV番組で時々お目にかかっていたためか、

親近感を覚えた。テーマが「江戸幕府『陰謀史観』を考える」とあって、その展開にいささか緊張感を覚えたが、さすが二人の〴〵主君の和氣藹藹(あいあい)の見事なやり取りと「両者の間に陰謀はなかった」との結論に胸を撫で下ろした(笑)。

大会は、大会長の山崎金沢大学長の挨拶、開催地の谷本県知事、山野金沢市長、と進み、大会テーマに「未来へつなぐ学都金沢の礎」を掲げただけに、地域に息づく藩校教育の伝統や精神を若い世代に伝える重要性が訴えられた。

子ども文化活動

三時間余にわたる大会だったが、この大会テーマでもある「若い世代」への流れを象徴するかのよう、「子ども文化活動」と題して、五グループが参加したイベントは、微笑ましく心を引きつけた。「金沢こども論語塾 明倫塾」「富山子ども廣徳塾」「加賀宝生子ども塾」「金沢子どもはしご登り教室」「大野町獅子舞保存会」の皆さんである。

「明倫塾」は、毎月一回の論語の勉強を続け、富山藩の藩校の名を冠した「廣徳塾」は、春夏二回、大人から高校生が論語を学習。加えて、他のグループは、能楽会宝生流の後継者育成、加賀藩前田家からの伝

統「加賀鷹梯子登り」の伝統、江戸後期からの獅子舞の継承など、舞台狭しと見事な演技、研鑽の成果を披露してくれた。実に明るく見事でした。未来を担う少年少女に光を当てる金沢市の取り組みは、次の時代を盤石にしゆく確かなる発展への鮮烈な「光源」になる事でしょう。

金沢宣言の発表

第十五回を数えた金沢大会は、「金沢宣言」の中で、「幕末維新期の日本において、各地の藩校で学んだ多くの人材が、強い信念と意志をもって新たな時代を切り開きました」と宣言し、その歴史的経緯の中から、「藩校教育の伝統と精神」を決して途絶えさせることなく、さらに豊かなものに磨き上げながら「未来を担う若い世代につないでいくため」不断の努力を誓うものになった。

「学都金沢」の「現在」を築き上げた原動力が、加賀藩、並びに支藩の藩校に学んだ多くの「青年の行動」にあったとの歴史を刻む、金沢の強い実感なのであろう。

金沢の藩校

・加賀藩では一七九二（寛政四）年に兼六園の傍らに設立された文学学校の「明倫堂」が儒学



や天文学などを教え、武学校の「経武館」は弓術や馬術、剣道などを伝えた。明治初年に「壮猶館」が合併され、外国船の来航により、海岸防備の必要性から兵学を学んだ。タカジアスターゼで世界的に有名な高峰譲吉も七歳の時、「明倫堂」で学んだ。

開設の達文には「四民教導」が謳われていた。武家社会にあって、庶民の向学に道を開いた先見の明に、未来への「力」を育む土壌があった。その志は明治以降は、旧制四校、金沢大学へと受け継がれていった。

世界的に著名な歴史学者、E・H・カー博士が、「歴史とは過去と現在との対話である」と残した言葉は有名である。歴史は、過去に止（とど）めてはならない。「過去」を知る者は、「現在」に何を為すべきか、常にその視点に立って、「未来」へ向けて「行動」する事こそ、歴史を知るものの使命なりと誓うものとなった。

次期大会開催地

開会に先立ち、明年の開催地が、副実行委員長の白石宗靖氏から発表された。

丹後国・田辺藩（京都府舞鶴市）の「明倫館」の歴史を偲んで行われることになった。

交流会

各藩の参加者の親睦交流会は午後六時三〇分から、場所を会場近くの「ホテル日航金沢」に移して行われた。

忍藩（忍郷友会）は、松平忠昌十六代当主（忍郷友会会長）、鈴木秀憲副会長、矢澤大和事務局長と共に、総勢二十五人が参加した。当日の全参加者三〇〇人の中では、最大多数を占めていた。会場前方のテーブルには、三〇人の各藩の当主席が用意されており、名刺交換を通して、「忍藩です」と御挨拶出来たのも、

初参加の自身にとっては、望外の喜びでした。その友好交流会は、会場の各所で「忍藩ですか」「大勢ですね」との声が聞かれ、ある当主は「忍藩は活発でうらやましい」との感想を寄せてくださったが、その日の盛りりの様子を物語っている。

大会副実行委員長の白石宗靖氏（漢字文化振興協会常務理事）が、平成二十六年の行田市サミットについて、「『全国藩校サミット』と日本創生」と題して、一文を記している。映画「のぼうの城」で有名な忍城の町、行田市。サミット当日は一〇〇〇人を超す参加者で会場が溢れたと述懐しつつ、忍郷友会が現在、子どもたちに漢詩や論語を教えている様子を紹介し、行田市は「まさに藩校の教えが現代に生きている町」と賛辞を惜しまない。

エクスカーション

翌日の十月一日（日）は、朝八時半からバスで、兼六園、金沢城公園、ひがし茶屋街、尾山神社、二十一世紀美術館、長町武家屋敷を巡り、金沢駅で夕刻解散となった。同じコースに、徳川恒孝氏、松平会長も参加され、同じバスで一緒に一日観光が出来た事は、また、かけがえのない思い出になった。

第15回 全国藩校サミット 金沢大会・プログラム

9月30日(土)

- ・ 11時00分
藩校会議 (ホテル日航金沢)
- ・ 11時30分
藩主会議 (ホテル日航金沢)
- ・ 13時30分
藩校サミット (県立音楽堂・邦楽ホール)

開会の辞

大会会長 山崎金沢大学学長

開催地挨拶

山野金沢市長

主催者挨拶

石川大会顧問

歓迎の挨拶

前田利祐大会名誉会長

谷本石川県知事

記念講演

「加賀藩の藩校と前田家」

本康金沢星陵大学教授

旧藩当主紹介

代表挨拶 徳川恒孝氏

記念鼎談

徳川恒孝氏

前田利祐氏

山本博文氏

子ども文化活動

- 金沢こども論語塾 明倫塾
- 富山子ども廣徳塾
- 金沢子どもはしご登り教室
- 加賀宝生子ども塾
- 大野町獅子舞保存会

金沢宣言の発表

山本大会副実行委員長

次期大会開催地発表

白石大会副実行委員長

引継書受渡

前田大会名誉会長

閉会の辞

石田実行委員長

- ・ 18時30分
交流会 (ホテル日航金沢)

10月1日(日)

- ・ 8時30分
エクスカージョン (金沢駅発)

兼六園は何度訪れても新鮮である。私が、有名な「唐崎松」より心を惹かれたのは、園内を流れる曲水(きよくすい)である。一六三一年の寛永の大火の翌年、三代藩主・前田利常の命により、町人・板屋兵



四郎が城の防火用水としてつくった「辰巳用水」(たつみようすい)が今なお使われているという。当時の武家社会にあって、町人の活躍が殊の外、光っている史跡である。

創業一八〇年の「大友楼」で昼食を取った。加賀藩の御膳所として勤めた老舗である。松平会長を囲み、忍郷友会だけの昼食会だったが加賀料理を堪能しながら、飾らない会長の人柄に触れての、しばしの懇談は実に楽しかった。

参加者の一人の婦人が、ひがし茶屋街の散策によせて、席上、即興の句を詠み披露した。

出格子の

茶屋街 ぬける

風は 秋

(作…鈴木スイ子さん)

二日間の充実した思いが、初秋の風情にじっくりとけこむような句である。参加者一同、秋色の風の中に良き思い出を心に刻んだ。

金沢は、卯辰山、小立野台、寺町台の街並みを犀川と浅野川が流れ下る、三丘二水の落ち着いた町である。

春の風吹く、香林坊に

小松砂丘の句がのこる

過ぎゆく歳月よ 街は変われど
辰巳の用水は 今日も流れて

(「金沢望郷歌」作詞…五木寛之)

江戸時代の「辰巳用水」は、平成の今日も流れている。

春の風吹く

香林坊に――。

過ぎゆく歳月よ

街は変われど――。

金沢の街を愛した五木寛之が残した「金沢望郷歌」の一節に心が動く。歴史とは過去だけでもない、現在だけでもない。過去に源を発し、現在から未来に流れゆく川の流れのように、人間の不変不朽の営みである。そんな悠久の歴史と、人間の「価値」と「重み」をふと考えさせた藩校サミット――。初参加の自身にとって代えがたい貴重な「金」の想い出の二日間であったと、感激、感動、感謝の思いを胸に刻んで、夕闇迫る金沢の街を後にした。

北陸のお城を訪ねてきました

鈴木 秀 憲

藩校サミットへ出席する楽しさの一つに、訪れた先のお城並びに周辺のお城への訪問が有ります。昨年は丸亀大会に乗じて四国のお城を訪ねてきました。

今回は、加賀前田藩でのサミットです。金沢城は勿論の事、周辺の高岡城、七尾城を訪れました。又、その三日後に、福井県内にあるお城へも行ってきましたので、こちらも北陸の城と言う事で付記します。お城歴訪の記録文でもあるので、藩校サミットと金沢以外について記してありますので、ご多用の方は、九月三〇日の項だけお目通し下さい。

九月二九日

朝八時に自宅発。関越道から上信道、北陸道を経て向かいます。北陸の城と言うと、向かう途中に春日山城、魚津城、富山城等が有りますが、この三城は（後日訪れる機会が有るので）パスして、高岡城へ一目散、午後二時に高岡市へ到着しました。

高岡城は、高岡駅と市役所の中間に位置し四周は堀に囲まれていて二

料以上もあります。ここには天守閣等の建物はなく、広い敷地は城跡公園を構成しており、現在は公園が国の史跡に指定されています。まずは城址の一角にある高岡市博物館で歴史を習いました。

高岡城は、金沢城主を弟利常に譲った前田利長の隠居所的に（高山右近の縄張りで）（まったくの平地に）作られた平城でした。利長は入居後数年で没し、その後は一国一城令に従い（本拠地金沢城が有るので）廃城になりましたが、加賀藩の越中における米蔵・火薬庫等の重要拠点として使われていたようです。

一時間程、歴史の勉強と城址散策を楽しんだ後に、能登の七尾城へ向かいました。七尾城は高岡城とは異なり、七つの尾根にまたがって作られた本格的な山城です。昔の能登ドライヴは、海岸沿いや山道を走り大変な事でしたが、今は能登自動車道が繋がっていて、七尾城山と言うインターチェンジが有り、五〇分足らずで七尾城山麓の七尾城史資料館へ着き、ここで城の歴史を一寸勉強し

ました。

足利幕府の守護大名の一人畠山氏の弟が能登地方の守護大名になりその子孫がこの地方を治めていたようで、能登畠山氏第三代畠山義統の代に築城されました。時代は下がり一五七六年には上杉謙信が、一五八一年には織田信長が治め前田利家が領主になって居ます。

利家はここへ立派な城を築きましたが、一五八三年に尾山城（後の金沢城）へ移り、一五八九年に廃城になりました。でもここも日本百名城の一つです。

資料館のある麓から山頂へは、徒歩用の登山道（徒歩七〇分）が整備されていますが、自動車道（四料一〇分）も整備されていて、私は雨が降っていた事もあって（雨が降って居なくても）勿論後者を選びました。山頂には駐車場が整備されていて、ここから数分で標高三百メートルの天守閣跡地へ辿り着きました。雨は上がり、天守閣跡地には七尾城址の石碑が誇らしげに立っており、ここからは七尾湾から富山湾へ続く日本海の眺望が広がっていました。

山間地なので、暗くなる前に下山し、のと里山海道で金沢へ向かい、一時間一寸かかって午後六時過ぎに金沢駅前にあるホテル日航金沢へ到

着しました。

九月三十日

今日は藩校サミット本番です。藩校会議が十一時から開催されるので、その前に金沢城へ行つて来る計画を立て、朝食を早めに摂る事にしました。

このホテルの和朝食は素晴らしいもので、六階にある和食レストラン「弁慶」で日本庭園に面したテラスで、ぷりぷりとした海老の天ぷらを頂く事が私のお目当てです。又、主菜やその他のおかずやご飯のお供には北陸の地の物が提供され、朝から至福の一時を楽しみました。

来客用駐車場が城の近くにある事は知っていますが、駐車場へ止めて金沢城と行き来する時間があったくないのでタクシーで八時半頃に金沢城へ向かいました。城の管理事務所（二の丸案内所）は九時開館ですが、城公園構内へは早くから入れるので、三の丸広場・二の丸広場から続き櫓を外から見て回りました。

金沢城の歴史は一五四六年（徳川家康が生まれて四年後）に本願寺が尾山御坊（尾山は金沢の古い地名）と言う浄土真宗（一向宗）の布教拠点を設けた事に始まるそうです。その一向一揆を織田信長が鎮圧し、信長の命で佐久間盛政が築いたのが金

沢城です。一五八二年信長の死後の跡目争いで柴田勝家側に就いた佐久間盛政が敗れ、(柴田側ではあったが、柴田氏に味方しなかった)前田利家が秀吉の命で金沢城へ入城し、関ヶ原の戦いでは利家の長男前田利長が徳川方で積極的に関与、功績を挙げました。以降金沢城は江戸期を通じて明治二年迄前田氏十四代の居城となつて居ました。天守は前田利家が築いたものの、一六〇二年に焼失し以降は築かれていません。政務は二の丸で執られていましたが、明治十四年の火災で焼失してしまいました。

以降、石川門(白門:重要文化財)のみを残し、明治・大正・昭和とこの地は旧陸軍の施設として使われ、戦後は金沢大学のキャンパスが築かれ学都金沢のシンボルになって居ました。平成七年に金沢大学は移転し、平成十年から平成の築城が始まり、菱櫓・五十間長屋・橋爪門・続櫓・河北門等が次々と復元され、平成二〇年には国指定史跡になりました。平成二七年に橋爪門が完成し、これで本丸・二の丸へ入る三門(石川門・河北門・橋爪門、石川門が古くからのままの門で重要文化財として有名だが、正門は大手口に続く河北門)が揃いました。



金沢城の橋爪門と橋爪門続櫓

九時ぴったりに二の丸案内所へ行き、一番乗りで続き櫓へ入りました。古くからの工法でしっかりと造られた続櫓内部は見所がいっぱいありました。菱櫓から続櫓までは九〇メートル有り、菱櫓は高さ十七メートル、建物の角を外から見ると大きく見えるように、九〇度ではなく百度にして有り、それを構成する柱も、断面を見ると百度と八〇度の菱形になって居ます。つまり建物全体が上から見ると菱形で、続櫓側が鋭角(八〇度)で角が鈍角(百度)に出来ています。それに昔からの工法で、釘は一本も使わず、嵌め込み式なので木

造軸組工法と云うそうです。

又、櫓の外観ですが、(櫓内部にある説明を読んでわかった事です)で、ここに記しますが)外壁の下側には、瓦を使った海鼠壁が施されています。それに、屋根が土を焼いて作る瓦ではなく、瓦の形をした木型に鉛板を張って作った鉛瓦で有る説明もありました。この鉛瓦は、平らな瓦だけではなく、瓦棒や鬼瓦も鉛瓦で、この城だけの特徴の様です。以前にここへ来た時には細かい説明を読まなかったで、随分白い瓦屋根だと感じていただけでした。

一時間たつぷりと金沢城を見学し、タクシーでホテルへ向かいましたが、タクシーの運転手さんが、俱利伽羅峠(木曾義仲が平氏軍を打ち負かした場所 能登と越中との境)の話題から斎藤実盛(妻沼の聖天様の開基。幼い頃の義仲の命を助けた)の事に詳しく、火牛の計(兵士が少ない義仲軍は、夜に牛の角へ松明をつけて兵が多くいるように見せかけて行進・突撃した。)の話や、篠原の戦い(片山津温泉近く 義仲軍が逃げる平氏軍を完璧に打ち負かした。負けた平家軍の首実検の時に斎藤別当実盛の首が有り、その時に義仲は自分を幼い頃に助けてくれた斎藤別当実盛である事に気が付きさめざめと泣いた。)の話にまで及び、

出来ればこのままずっと話したかったのですが、藩校会議へ出席するのでそれも出来ず、ホテル着後に分かれた。

藩校会議では八〇名程が参加し、忍郷友会の事業及び運営の話を私が紹介し、進修塾子供素読教室の詳細を奥田さんが発表して、他藩の参考にして頂きました。

この後に、藩校サミット全体会が行われ、又、楽しい懇親会も盛り上がりしました。

十月一日

今日は帰宅日です。朝食は今朝と同じ和食レストランへ行きました。何の気なしに「昨日もここで、今日もここです。二日続けて来る位にこのレストランを気に入っています。」と話したら、「二日目なら、主菜を替えましょう。」という事で、昨朝とは異なる主菜が用意されました。勿論天ぷら等かなりの品がビュッフェスタイルで、自分で摂る事も出来ますので、お気に入りの海老の天ぷらを今日もいただきました。それにしても、主菜を替える等大変気を使っている事が伺えるレストランです。

それはさておき、今日は。途中で富山の親戚へ寄るので、城巡りは後日にして、昨日話が出た俱利伽羅峠

だけへ寄って富山へ向かいました。

以上で藩校サミットの時に併せて尋ねた城の話はお終いですが、この三日後に再び北陸へ行きましたので、ここに追記します。

十月二日

明日十四時福井で開会の会議へ出席するには、明朝自宅を出ればそれでも間に合うが、ついでに百名城の一つ二つへ寄る為に、車で行く方が自由が利く。それには明日の出発を早くしなければならず大変なので、本日の会議終了後ではあるが、十七時に自宅を出て二〇時半に、ルートイン上越へ到着した。

一〇月四日

八時半頃に上越発。十一時半頃に福井市郊外にある一乗谷へ着き、最初に福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館へ行きました。室町時代の守護斯波氏の重臣だった朝倉氏第七代の朝倉孝景が越前を実効支配し、応仁の乱以降は荒廃した京都から多くの公家・高僧・学者等も一乗谷城下へ招いて大いに栄えたようです。

足羽川沿いの遺跡資料館から川沿いに七〇〇メートル程南下し、そこで左へUターンする足羽川と分かれ一軒程更に南下すると一乗谷館



一乗谷／朝倉館跡に建つ松雲院唐門

跡へ着きます。一乗谷は東、西、南を山に囲まれ、北には足羽川が流れる天然の要害で、南北に城戸を設け、その間の長さ約一・七軒の「城戸ノ内」に、朝倉館(武家屋敷)をはじめ、侍屋敷、寺院、職人や商人の町屋が計画的に整備された道路の両面に立ち並び、日本有数の城下町の主要部を形成していたようです。周辺の山峰には城砦や見張台が築かれ、地域全体が広大な要塞群で有り、一度事が起きれば北国街道へすぐに出入れる好位置に有ります。

朝倉氏は、一時は將軍足利義昭を庇護していましたが、時の流れには勝てず、一五六八年織田信長が義昭を奉じて京へ上洛する頃から織田氏との対立が強くなり、浅井氏の加勢を得て一度はこの地を守る事が出来

たものの金ヶ崎の戦い、姉川の合戦を経て、最終的に一五七三年織田軍に攻められ朝倉義景は自刃し、百十年続いた朝倉氏の滅亡となりました。

頭に詰め込んだ朝倉氏の興亡の足跡を思い出しながら、復元された町家街を歩き、又館跡に建つ松雲院唐門(写真)や礎石等を見て往時に思いを馳せ、一時間程の滞在で、この後に大会が開催される福井市の産業会館へ向かいました。

十月五日

宿泊ホテルを福井城協のホテルフジタ福井へとつておいたので、翌朝は朝食後に、目の前の福井城へ向かいました。

浅井氏が滅びた後、この地で一向一揆がおきましたがこれを平定した後、一五七五年この地は上杉方に対する抑えとして、信長の命で柴田勝家が治める事になりましたが、勝家は一乗谷ではなく、城下町を形成しやすい平地へ城を築き新しい城下町を整備しました。これが北庄(きたのしょう)城です。勝家はここを本拠地とし、織田軍の重臣として活躍をします。

しかし信長亡き後の清須会議で、勝家は秀吉に織田氏の跡目を取られる事になり、翌一五八三年に賤ヶ岳

の戦いで敗れ、愛妻お市の方と共に切腹し北庄城は炎上しました。

話は変わりますが、家康の次男秀康(一五八四年の小牧長久手の戦い後に秀吉側へ人質として預けられていた)が、一五九〇年秀吉の養子結城秀康として結城十萬石城主になって居ました。当時(のぼうの城以降)の忍城主松平忠吉の兄にあたります。

関ヶ原の戦いの後に松平秀康として(北庄の後の)福井六十八万石城主になります。

松平秀康は、従来の北庄城の跡地に福井城を築城しました。加賀藩、薩摩藩に続く大大名で、天下普請(国家事業)として諸大名からの援助を受けての築城だったそうで、城域は二軒四方に及んでいた様です。四層五階で天守台を含めての高さは三七メートルもあつたという事です。残念ながら一六六九年の大火で焼失し、その後再建はされなかったそうです。

現在の城跡は、外堀は埋められ三〇〇メートル四方の内堀が残り、その内側に福井県庁や県議会事堂、県警本部の建物が造られています。この三つの建物は現在における城の機能を果たしています。朝の冷たい空気の中でのこの城跡散策は、大変有意義でした。

ホテルフジタ福井を九時前に出て、丸岡城下の駐車場へ四〇分弱で着きました。

昨日の一乗谷もそうでしたが、この丸岡城も私は既に来ています。しかし今回寄るのは日本百名城のスタンプ押印をする為です。改めてこの城の良さを復習しましょう。

この城の天守は現存十二天守の内では一番古いものです。現存十二天守については、四国のお城を訪ねた紀行文でも触れましたが、江戸時代若しくはそれ以前に作られた天守閣を持つお城で、国内には十二天守有ります。国宝の五城(姫路・彦根・犬山・松本・松江)に加えて四国の四城(伊予松山城・宇和島城・高知城・丸亀城)と、備中松山城、丸岡城と弘前城です。これは覚えておきましょう。その現存十二天守の中で、「築城



現存十二天守の一つ／丸岡城天守

が最も古い城がここ丸岡城です。」と現地ガイドさんが誇らしげに話してくれました。天正四年と云うから一五七六年、長篠の戦の翌年です。柴田勝家の甥柴田勝豊が築城しています。賤ヶ岳の戦いの後には城主は丹羽長秀の所領となり、丹羽氏は家臣の青山氏を城主としました。青山氏は関ヶ原の戦いで西軍についたため改易、越前の国は松平秀康の所領となり、秀康の家臣の今村氏が城主となります。その後にも城主は転々と変わり、江戸期後半から有馬氏の所領となり明治期を迎えました。明治になって廃藩置県で解体の対象になりましたが、天守のみは解体を免れ残りました。昭和二十三年の福井大地震で崩壊しましたが、一部が残り崩壊部分も旧の部材を多用して修復され、築城当時のままで現存しています。

この城の特徴は、石で出来た屋根瓦です。一乗谷付近で採れる笏谷石(しゃくだにいし)を加工した瓦で、ガイドさんによると雨に濡れると青く光って特に美しく見えるとの事でした。後で調べたら福井城の瓦もこの笏谷石で葺いてあったそうです。

この様に現存十二天守の

中で一番古い点、石で作った瓦屋根等の特徴を持った丸岡城、町の人達には熱い気持ちを持って「丸岡城を国宝に！」という運動を展開していました。地元の方々が、このような運動を展開している事に私は感銘を受けました。

又、この城は、「日本一短い手紙」で有名です。前述の今村氏の後に丸岡城主となった本多成重の父で「鬼作左」として有名な本多作左衛門が、その妻に宛てた手紙「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ。」が、日本一短い手紙という事だそうです。文中の「お仙」は本多成重の幼名。

※本多作左衛門については、山岡荘八氏の小説「徳川家康」に詳述されています。

駆け足で行った北陸の城探訪でしたが、いずれも上杉氏の手から織田信長が北陸を治め、その地を柴田勝家に任せ、賤ヶ岳の戦いの後に加賀と越中は前田氏に、越前は丹羽氏に託されました。関ヶ原の戦いではうまく立ち回った前田氏がそのまま領主として加賀と越中を領し、越前は関ヶ原の後に松平秀康に託され紆余曲折を経て松平氏で明治維新を迎えました。

社会福祉施設

教育・文化施設

オフィス・工場

店舗・商業施設

耐震補強

建物リニューアル

技術と環境の未来を見つめて

小川工業株式会社

埼玉県行田市桜町1-5-16 TEL.048-554-4111

行田市郷土博物館の三十年と松平下総守家 （展覧会と収蔵資料から）

行田市郷土博物館副館長 鈴木 紀三雄

はじめに

行田市郷土博物館は昭和六十三年二月十七日の開館以来、今年で三〇年を迎える。この間、多くの方に御来館いただくとともに、市内外の方から様々な資料の寄贈や寄託を受けることができた。また、市内外の資料調査を行い、その成果をもとに展覧会を実施することにより、行田市の多彩な歴史を広く紹介してきた。そこで本稿では開館三十周年にあたり、これまで開催してきた展覧会のなかから、忍郷友会に最も関わりが深い松平下総守家（奥平松平家）やその家臣に関する展覧会と、展示資料について紹介してみたい。

1 展覧会の開催について

① 博物館の展覧会

博物館では現在、春・夏・秋・冬の各季節に企画展示室で展覧会を実施している。このうち中核となるのは夏のテーマ展、秋の企画展である。両方とも古代から近現代までの行田の歴史と関わりのあるテーマを設定

し、資料調査を実施し、当館収蔵資料のほか、他機関や個人からも資料を借用し展覧会を実施している。企画展とテーマ展の違いは主に展示テーマの設定を広く日本史の大きな流れのなかに落とし込むか、それよりもミクロな視点でみるかの違いである。展覧会の規模は企画展の方が大きく、テーマ展はそれよりも小さくなっている。

② 展覧会と資料

展覧会を行ううえで不可欠なのは資料である。歴史系の展覧会ではテーマや主旨に基づき様々な資料を調査し、そこから導き出された歴史的事実を繋ぎ合わせて展覧会に必要な歴史像を描き出し、関連する古美術品や武器武具類、古文書、典籍、生活用具などの資料をもとに、展覧会を構成していく。

ところが、残念ながら松平下総守家には残された資料がほとんどない。では、どうするかというと、家臣の家に伝来した資料や、縁あって

市外の博物館や図書館、文書館などに収蔵された資料から歴史の情報を引き出すことになる。

また、行田は戊辰戦争の兵火や太平洋戦争の空襲に遭わなかったこともあり、家臣の子孫の方々のもとに、先祖伝来の古文書や武器武具類、古美術品などが残されてきた。忍東照宮にも書画や工芸品が伝わっていた。博物館開館以後、それらの資料が寄贈や寄託され、展覧会を構成する資料となっていく。

2 松平下総守家に関する展覧会について

つぎに、当館で開催した松平下総守家関係の主な展覧会と収蔵資料について開催順に紹介してみたい。

① 第八回企画展 忍藩の砲術



鉄板黒漆塗納戸糸素懸緘二枚胴具足
（松平家家臣伊藤家伝来）

（平成六年十月八日～十一月二十三日）
当時、埼玉県立文書館に寄託されていた松平家砲術師範井狩家文書の中には、藩士の訓練の様子を描いた絵巻物「砲術形状図式」や砲術訓練の結果を記録した的中帳など、豊富な砲術関連の資料が含まれていた。さらに、この二年前に調査と資料整理の機会を得た奥平家文書にも、大量の大筒の型紙など含まれていた。これに、家臣の子孫の方から博物館に寄贈していただいた砲術の伝書などを加えて、展示の骨子を構成した。なお、後に井狩家文書、奥平家文書とも博物館に寄贈された。

② 第十一回企画展 松平下総守と家臣団（平成九年十月十日～十一月二十四日）

大坂冬の陣、夏の陣での初代松平

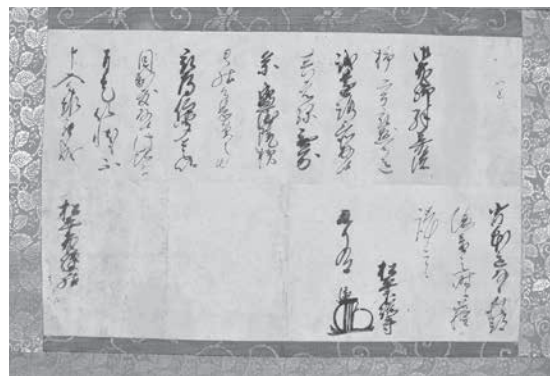
忠明と家臣たちの活躍を描いた絵巻物「大坂御合戦絵巻」を調査する機会を得、これに奥平家文書の家臣団関係資料や、各地にある松平忠明関係資料、さらには文政六年の転封の資料をもとに展示を構成した。このときの忠明に関する調査が後々まで役に立つこととなった。

④第十八回企画展 幕末の忍藩（平成十六年十月九日～十一月二十三日）

天保十三年の房総半島沿岸警備から慶応四年の戊辰戦争までを扱った展覧会である。館蔵資料では先述の奥平家文書や井狩家文書、当時は寄託資料だった世川家文書、寄贈資料の伊藤家文書などを展示した。特に世川家文書には、沿岸警備のため房総に単身赴任した夫と忍に残る妻との間で交わされた十数通の書状が含まれており、警備の実態や当時の武家の考え方を知らうえでの貴重な資料となった。

⑤第二十一回テーマ展 忍藩主松平家と東照宮（平成二十二年七月十日～九月五日）

忍東照宮の松平家関係の資料や大蔵寺所蔵の奥平貞能画像、博物館所蔵の松平忠明書状などを展示した。また、松平忠明が元和三年に大坂に



松平忠明書状

勧請した川崎東照宮の詳細な絵図面が世川家文書に含まれており、展示するとともに図録に図面を掲載した。

⑥第二十六回企画展 城絵図と忍城（平成二十四年十月六日～十一月二十五日）

全国にある様々な忍城図を集めた展覧会である。松平家時代の城絵図としては、当館保管の文政年間忍城図や文久年間忍城図を展示した。また、岡山大学所蔵池田家文庫に含まれる忍城図や、忍城二の丸御殿の詳細な絵図面であり、博物館常設展示室模型制作の資料となった忍城内略図も展示した。なお、会期の途中で

映画「のぼうの城」公開を迎えたこともあり、会期中の入館者は四万人を越えた。

⑦第二十四回テーマ展 忍藩士の文化（平成二十六年七月五日～八月三十一日）

藩校サミット行田大会にあわせて実施した展覧会である。慶応大学文学部所蔵の石城日記を展示したのはをはじめ、奥平家文書や忍東照宮資料、伊藤家文書などの中から家臣の記録類や藩校、教育、文化に関する資料を展示した。また、真田宝物館が所蔵する桑名藩時代の藩校進脩館の絵図面を展示し、忍藩時代よりはるかに規模が大きかった藩校の様子が明らかとなった。

⑧第三〇回企画展 江戸湾沿岸警備と忍藩（平成二十八年十月八日～十一月二十七日）

平成十六年の「幕末の忍藩」展以後、新たな資料の発見や研究の進展があり、その成果を盛り込み、岡山大学や館山市など各地に残された忍藩の沿岸警備に関する資料の調査を実施し、江戸湾の沿岸警備に焦点をあてた展覧会を開催した。

おわりに

以上のように、松平家家臣の家に

伝来した資料の調査や収集の成果により様々な展覧会を実施することができた。この三十年の資料収集や調査により、松平家の家臣団の構成や武芸修練の実態などが明らかにされるとともに、国替えや沿岸警備の実態など、忍に移ってからの歴史も判明してきた。博物館では今後も資料の調査や収集を行い、その成果を展覧会などで広く公開することにより、忍藩と松平家の歴史を紹介していきたい。

プライミクス株式会社

社長 古市 尚實
会長 古市 尚實

<http://www.primix.jp>



本社 〒656-2306 兵庫県淡路市夢舞台二丁目三十三
電話 〇七九九 七二〇〇八〇
FAX 〇七九九 七二〇〇四〇
埼玉支社 〒350-1101 埼玉県川越市市場一丁目十七十六
東京支社 〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目十六四
名古屋支社 〒160-0008 名古屋市中区栄二丁目九番十六号
大阪支社 〒559-0009 大阪府福島区福島五丁目六番十六号

「和装文化の足元を支え続ける 足袋蔵のまち行田」の日本遺産認定

行田市教育委員会文化財保護課 課長 中 島 洋 一

平成二十九年四月二十八日に、行田市が文化庁に申請していた日本遺産ストーリー「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」が、埼玉県初の「日本遺産」に認定されました。

日本遺産は、文化庁が平成二十七年に創設した新しい文化財制度で、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」に認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組を支援する制度です。

日本遺産は、地域に点在する文化財を把握してストーリーによるパッケージ化を図り、地域主体で面的・総合的に整備・活用し、世界に戦略的に発信することにより、地



域の活性化を図ることを目的としています。日本遺産認定で、新たな規制が文化財に加えられることは一切ありませんが、文化財を活用した地域活性化事業（日本遺産魅力発信推進事業）を行うことが必要になります。

日本遺産は、ストーリーの概要、ストーリーの本文、ストーリーを証明する構成資産（文化財）、地域活性化計画で構成されています。本市のストーリーの概要は、次の通りです。

「忍城の城下町行田の裏通りを歩くと、時折ミシンの音が響き、土蔵、石蔵、モルタル蔵など多彩な足袋の倉庫「足袋蔵」が姿を現す。

行田足袋の始まりは約三百年前。武士の妻たちの内職であった行田足袋は、やがて名産品として広く知



れ渡り、最盛期には全国の約八割の足袋を生産するまでに発展した。それと共に明治時代後半から足袋蔵が次々と建てられていった。今も日本一の足袋産地として和装文化の足元を支え続ける行田には、多くの足袋蔵等歴史的建築物が残り、趣きある景観を形づくっている。」

行田市のストーリーの構成資産は三十九件で、内訳は埼玉古墳群、忍城跡などの史跡・旧跡が四件、秋山家文書等の有形文化財が三件、旧小川忠次郎商店店舗及び主屋等の建造物が二十六件、行田の足袋製造用具及び製品等の有形民俗文化財が二件、フライ等の無形民俗文化財が四件となっています。

日本遺産認定後、行田市では市、商工会議所、自治会連合会、構成資産の所有



者等からなる行田市日本遺産推進協議会を立ち上げ、文化庁の補助金の交付を受けて、日本遺産魅力発信推進事業に取り組んでいます。

事業の大半はソフト事業で、PR動画やパンフレットの作成、ガイドンスセンターの設置などの情報発信、日本遺産講座の開講などの普及啓発、説明板・案内板の設置などの公開活用のための整備、構成資産の詳細調査や再活用に向けたマーケティングリサーチなどの調査研究を進めています。

日本遺産は、東京オリンピック・パラリンピック開催を念頭に、文化財を活用して、インバウンドを含む観光振興を核に、地域活性化を図ろうとする制度です。

日本遺産関連事業の推進によるふるさと行田の地域活性化に、忍郷友会の皆様のご理解、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

時事川柳

小澤 誠邦

近未来長寿新税かかりそう

人間をナンバーにするロボット化

国連に拒否権と云う魔物住み

川柳

小澤 誠邦

サプリメント色々試して財布やせ

耳遠くなったお陰で好々爺

先生と呼ばば三人振返る

シュレツダー過去の恋など切り削む

過去自慢今日もしちゃって後悔す

俳句

渡邊 栄一

春眠の夢の中では現役中
箱根路を走る若人息白し

須郷 隆

蛸の声に誘われ行く小径
風に舞う銀杏落葉の吹き溜り

小島 敏男

夕陽落ち富士影残す秋の空
年重ね未知の世界や冬うらら

安部 節子

俳聖の肩に寄り添う萩の花
深呼吸五臓六腑に若葉風

倉持成一郎

新蕎麦の張り紙のある銀座裏
風に舞い城のお濠や花筏

清水 孝男

藩校の名残りの素読額の花
春浅し風はシルクの肌ざわり

三島 務

しつとりと濡れる路面に夏涼み
松飾る葉の香りに癒されて

折井 幸子

着こなしのその人らしき薄ころも
からやかなメロディ嬉し初メール

阿部秀二郎

萩の路巡礼の鈴幾重にも
時を経て赦す心に名残り雪

鈴木スイ子

悔恨の大小あれど柚子湯かな
立春やタベの豆のころぶ庭

長谷川 博

雨上がりピンクの花咲くゴルフ場
立春や徐々に夜明けの早まりぬ

遠藤 初枝

じんろくの名がつき子猫愛される
日の入りて名残りの風炉や京千葉子

田代 敬二

古詩懐古老の日暮らし秋深む
老知りて歩み恐ろしかたつむり

株式会社ファイブイズホーム
代表取締役社長
細井 保雄



社員送迎バス
スクールバス

Kyodo Bus Group

コミュニティバス

観光旅行バス

株式会社 協同バス
TEL: 048-554-0808 (予約)
埼玉県行田市佐間1-20-36

おかげさまで、創業120周年。

120th
ANNIVERSARY

無限に変わらぬ感謝の想い。

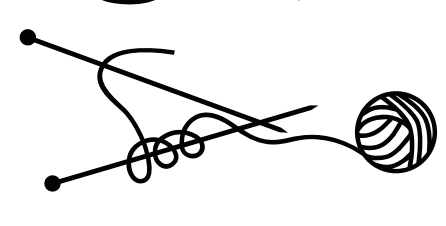



八木橋 〒360-8502 熊谷市仲町74番地
☎048-523-1111

八木橋 | 検索

FASHION CREATORS HOUSE

gim[®]
co.,ltd.



株式会社ジム
代表取締役会長
八木原 保

「地域共存」66年
税理士法人 **大久保会計**

所長 税理士 **大久保 毅**
副所長 税理士 **大久保 栄吾**
支店長 税理士 **大久保 秀彦**

〒361-0023 埼玉県行田市長野二丁目二五番三三号
埼玉県熊谷市津田一一八八番地

御名刺掲載欄

(順不同)

公益財団法人忍郷友会

会長

松平忠昌

〒214-0038 川崎市多摩区生田六一一五―三六
☎〇四四―九五五―九三三六

特別会員

白河藩阿部家二十二代当主

阿部正靖

〒297-0057 千葉県茂原市中善寺一一〇九―八
電 話 〇四七五―二六―五五七九

株式会社ケイマス

代表取締役

黒 渕 陽 夫

〒365-0001 埼玉県鴻巣市赤城台三六二―二二
TEL〇四八―五六九―二二五
FAX〇四八―五六九―二二二

公認会計士

奥貫健一

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷三一―十五―四〇一

天眼寺住職

東 瑞 芳

〒110-0001 東京都台東区谷中一一―二―十四
電 話 〇三一三八―二一―七七一八

行田セレモニー

(株)ヨコカワ

代表取締役会長

横川福治

〒361-0073 埼玉県行田市行田一一―三三
電 話 〇四八―五五六―二二五六

弁護士法人 蔭山法律事務所

弁護士 蔭山好信

〒361-0073 埼玉県行田市行田一二番一二号
TEL〇四八―五五四―〇〇〇三
〒360-0041 埼玉県熊谷市宮町二丁目一八番地
未広不動産宮町ビル二階・三階
TEL〇四八―五九九―一三〇〇

大野建設株式会社

代表取締役

大野年司

〒361-0056 埼玉県行田市持田三丁目四番三号
電 話 〇四八(五五三)〇一〇〇開山慶長十一年
水戸黄門様ご宿泊のお寺

曹洞宗 龍淵山祥雲寺

住 職 大西義道

〒300-0744 茨城県稲敷市押砂九三二
FAX〇二九九(七九)〇〇六四
携 帯 〇九〇(八六四)二四四三一

社会福祉法人財団若葉

若葉保育園

園長 保泉欣嗣

〒361-0073 埼玉県行田市行田十一―十
電話(〇四八)五五六―二七九七I.Tの困りごと解決します
ホットネット株式会社

代表取締役 小松和弘

〒361-0016 埼玉県行田市藤原町二―七―七
電 話 〇四八―五八〇―一三〇七七

ガクヤ株式会社

代表取締役社長

小池俊輔

〒361-0075 行田市向町十四―二十
☎〇四八―五五六―三二二一

小澤企画

各種相談・企画・コンサル

代 表 小澤誠邦

〒361-0006 埼玉県行田市大字白川戸七〇二―一
TEL(〇四八)五六四―一―一
FAX(〇四八)五五二―〇五八二医療法人 葦の会
石井クリニック
元氣いっぱい 笑顔いっぱい

理事長 石井義則

〒361-0037 埼玉県行田市大字下忍一〇八九―一
電 話 〇四八―五五五―三五一九

山本食品工業株式会社

山本正幸

〒361-0025 埼玉県行田市埼玉四八六一
電 話 〇四八―五五九―二二二一

大岡産業株式会社

代表取締役

大澤 誠



〒361-0062 埼玉県行田市谷郷一三〇一
TEL 〇四八五五三一〇二八
FAX 〇四八五五三一〇二八
携帯 〇九〇一六〇二六六〇
http://www.okasanyo.com/

渡辺株式会社

取締役会長

渡邊 栄一

〒361-0073 行田市行田一四
電話 〇四八五五六一八九六八
FAX 〇四八五五六一二八八
携帯 〇九〇一七七一九一三五五

行田市 蓮の大使

人形作家

木暮 照子

日展会友・工芸美術
日本新工芸家連盟会員
蓮文化研究会理事

住 職 福島 伸悦

(連絡先)
埼玉県行田市下中条一六一九一二
電話 〇四八五五七一〇九九七
FAX 〇四八五五七一〇九九七
E-Mail: kotokujin@nuc.biglobe.ne.jp
http://chokoji.or.jp

山本商事株式会社

東京海上日動火災保険株式会社(代理店)
東京海上日動あんしん生命保険株式会社

取締役会長

山本 憲作

保険のやまもと
〒361-0074 埼玉県行田市旭町一〇四三
TEL 〇四八五五二二二一
FAX 〇四八五五二二二一
E-mail: info@hoken-yamamoto.co.jp

羽生モータースクール

代表取締役

五十幡 和彦

〒348-0036 埼玉県羽生市大字砂山八〇
TEL 〇四八五六一一三〇〇八
FAX 〇四八五六一一一五四七
http://www.motorschool.co.jp
E-mail: hanyu@motorschool.co.jp

会長

飯田 芳幸

株式会社エンボリック
〒361-0001 埼玉県行田市北河原七〇五番地
Gdsアドレス N: 361125 E: 362540
TEL 〇四八五五七三三六六(代表)
FAX 〇四八五五七三三二二

株式会社 リノン

代表取締役 新井 啓介

〒361-0038 本社 埼玉県行田市前谷二五
TEL 〇四八五五五〇九〇 FAX 五五五三三九九
携帯 〇九〇一三三三三三三
http://www.linon.co.jp E-mail: ara@linon.co.jp

有限会社 高戸 環衛

埼玉県知事登録番号 第515105号
貯 第7973号

代表取締役

戸ヶ崎 直司

〒361-0062 埼玉県行田市藤原町三十一一二六
電話 〇四八五五四一九二〇
FAX 〇四八五五六一二六二七

小山商事株式会社

代表取締役 小山 喜一郎

〒361-0025 埼玉県行田市大字埼玉三三五一
TEL 〇四八五五九一四二二(代)
FAX 〇四八五五九一四五〇

小山商事株式会社

取締役会長 小山 博

〒361-0025 埼玉県行田市大字埼玉三三五一
TEL 〇四八五五九一四二二(代)
FAX 〇四八五五九一四五〇

作業服ならお任せ下さい

株式会社武蔵野ユニフォーム

代表取締役 小松 和弘

〒361-0016 埼玉県行田市藤原町二七七七
電話 〇四八五五四一七三二五

全国PHP友の会

特任顧問

加藤 力也



〒362-0034 埼玉県上尾市愛宕三二二一九
FAX 〇四八七七七一五八五
E-mail: show-katou@com.home.ne.jp

根岸友山・武香ミュージアム

根岸 友憲

〒369-0104 埼玉県熊谷市青山一五二番地
電話 〇四九三一一三九一〇〇〇六

(株)味工房 那のつ

代表取締役

阿部 秀二郎

〒361-0023 埼玉県行田市長野一三三三一一〇
電話 〇四八五五五一一四五〇

創業 文久二年 伝統の味

割烹 魚 豊

橋本 恭一

TEL 〇四八五五三三一一三
FAX 〇四八五五三三一一四

合資会社 青美矢沢商店

代表社員

矢澤 大和

〒361-0073 埼玉県行田市行田二十一二二十五
TEL(048)556-1321
FAX(048)553-0040

株式会社倉持商店

紺織製品製造本舗・力王たび代理店

代表取締役

倉持 成一郎

〒361-0022 埼玉県行田市桜町一十二一四
TEL(048)556-1914
FAX(048)553-1283

《昭和14年創業》

各種自動車・重機・ラヂエーター販売修理
有限会社 小笠原ラヂエーター工業所

代表取締役

中川 邦明

〒360-0023 埼玉県熊谷市佐谷田一四三二番地
TEL(048)521-3395(代)
FAX(048)521-3384
自宅TEL(048)553-0278

株式会社 セティアコーポレーション

代表取締役

岩崎 安裕

〒323-0028 栃木県小山市若木町二一十一五
TEL(028)513-1833(代)
FAX(028)511-3577

株式会社 スマートプラン

東京海上日動火災保険株式会社（代理店）
東京海上日動あんしん生命保険株式会社（代理店）

代表取締役 田島 博夫

〒361-0073 埼玉県行田市行田五一〇ノートビル2F
TEL(048)564-1321
FAX(048)564-1321
E-mail:mail@spn1.com

株式会社 イシワタ

・一級管工事士の店・給排水衛生設備・建築リフォーム・LPガス
上尾・楠川・北本・加須・羽生・鴻巣・行田・熊谷・深谷指定上下水道工事店

会長 石渡 健司

本店 〒360-0093 埼玉県鴻巣市北根一六四三
TEL(048)569-0613
FAX(048)569-0613
行田店 〒361-0048 埼玉県行田市五八五一五
TEL(048)558-1515
携帯(090)330-0197

三共印刷株式会社

代表取締役 大谷 純一

埼玉県行田市富士見町二一三〇
TEL(048)556-1620

事務局就業のご案内

(公財) 忍郷友会事務局の就業日は、
平成29年1月より、火曜日・金曜日
となっております。就業時間につい
ては、従来通り10時～16時までです。

—— 藩校教育を現代に活かす ——

第2回 朗唱まつり

平成30年2月10日(土) 開場/PM 1:30
開演/PM 2:00

行田市教育文化センター〈みらい〉

—— 入場無料 先着500名 ——

プログラム

演 詩「忍 城 偶 成」

全員

素読教室風景

老本幼稚園々児

古 典「論 語・漢 詩」

忍藩こども塾々生

経 詩「三 字 経」

市立埼玉小児童

演 詩「燕の詩劉斐に示す」

忍藩こども塾代表

古 詩「四 時 読 書 楽」

一般成人市民

演 舞 おもてなし甲冑隊

演 技 武 蔵 あ ば れ 太 鼓

経 詩「三 字 経」

全員

記念品授与

公益財団法人 忍 郷 友 会
行田市行田5-10 TEL556-9000後 援 / 行田市教育委員会
お問い合わせは
火曜・金曜 AM10:00 ~ PM4:00知りたい! 学ばたい! 郷土の
歴史講座忍藩松平家の歴史から
江戸時代を検証する全3回
講座長篠城主・奥平昌昌と徳川家康の長女・龜姫を父母とした松平忠明を家祖とする松平家の歴史、
歴史上の出来事において松平家が果たしてきた役割、それらを通じた江戸時代の検証、教育など、
第16代当主 松平忠昌氏自らが講師として3回にわたり講座を開催致します。

第1回 忍藩松平家の歴史を学ぶ

長篠の戦い、三方領地替え、忍藩の果たした役割、江戸湾の防衛、戊辰戦争 等々...

日時/平成30年3月24日(土)

午後1:00 開場
1:30 開始 ~ 3:00 (終了予定)

場所 / 行田市商工センター 401号室

講師 / 松平忠昌氏 (忍藩松平家第16代当主)

昭和19年生、同42年学習院大学経済学部卒、
住友商事退職後、自動車部品会社役員等を歴任。
現在は、公益財団法人 忍郷友会 会長。

参加料 / 無料 (先着 180名)

「三方領地替え」とは...

1823年に行われた、奥平(松平家)・忍(阿部家)・白河(松平家)の
3つの藩を巻き込んだ領地替え。

▼ 第2・3回の講座は、後日詳しくお知らせ致します。

第2回 江戸時代とは

徳川幕府が江戸に開府した1603年から1868年までの266年間、
幕藩体制と社会制度、藩制度、江戸の庶民の暮らし、
外国人の見た日本人の生活 等々...

第3回 江戸時代の教育について

日本人の識字率の高さ、藩校の果たした役割、私塾、寺子屋
儒学が中心(四書五経)、漢詩、読書 等々...

平成30年7月 開催予定

主催 / 公益財団法人 忍郷友会 忍歴史塾 連絡先 / TEL.048-556-9000 (事務局)

行田市の現勢

平成二十九年十二月一日

1 市役所所在地

〒三六一―八六〇一

埼玉県行田市本丸二番五号

TEL〇四八―五五六―一一一

FAX〇四八―五五六―一七六六

2 市制施行

昭和二十四年五月三日

3 面積

六、七四九km²

4 人口

八二、一一三人(平成二十七年十月)

5 世帯数

三一、〇一五世帯(平成二十七年十月)

6 財政

二五二、一億円

7 市の機構

(当初予算)

8 教育委員会

市長 工藤 正司

9 議会

副市長 川島 将史

10 学校

教育長 森 郁子

11 都市宣言

議員定数 二十二名(無所属)

12 まちづくりの目標

議長 小林 友明

13 産業経済

副議長 秋山 佳子

14 公共施設

大学 一校

15 観光地

専門学校 一校

16 環境衛生都市宣言

高等学校 一校

17 交通安全都市宣言

中学校 八校

18 暴走族追放都市宣言

小学校 十六校

19 非核平和都市宣言

環境衛生都市宣言

20 人権尊重都市宣言

平和都市宣言

21 青色申告の都市宣言

交通安全都市宣言

22 暴走族追放都市宣言

暴走族追放都市宣言

23 非核平和都市宣言

非核平和都市宣言

12 まちづくりの目標

水と緑 個性あふれる文化都市

13 産業経済

製造品出荷額 二、六九六億円

商品販売額 (平成二十六年)

一、五一五億円

農業粗生産額 (平成二十六年)

四十八億円

商店数 (平成二十六年)

六六四店舗

工業事業所数 (平成二十六年)

二〇五事業所

さきたま史跡の博物館

教育文化センター

郷土博物館 忍城御三階櫓

産業文化会館・はにわの館

総合体育館・市民プール

総合公園野球場

公民館(十七館)・図書館

古代蓮会館・総合福祉会館

商工センター

風土記の丘さきたま古墳公園

忍城址公園

古代蓮の里公園

行田市郷土博物館・利根大堰

水城公園・東照宮

編集後記

今年度より、会報委員会委員長を担うこととなりました。前年度まで委員長を担われた黒淵陽夫様、ご苦労様でした。今後ともご指導・鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

さて、今回の会報の裏表紙にさくらの花咲く忍城の写真を掲載させて頂きました。テレビなどでサクランボなどに大きな被害を与え、花見の景観を一変させてしまうかもしれないと言われている外来種クビアカツヤカミキリが行田市内5カ所で発見されました。四年前に草加市で発見され、加須市、羽生市、熊谷市、深谷市へと拡大しています。群馬県館林市周辺ではソメイヨシノ並木に甚大な被害を与えています。冬、クビアカツヤカミキリは休眠状態になります。日本文化を象徴するさくらが今後行田市で見られるよう何とかしなければと思う今日この頃です。

こんな私ですが会報誌をより良くする為、今後、会報誌への皆様のご意見、ご提案よろしく願っています。

会報委員会委員長 橋本 恭一

発行者 公益財団法人 忍郷友会 会長 松平忠昌
事務局 〒三六一―〇〇七三

埼玉県行田市行田五―一〇(十万石スリーハートビル3F)

TEL 〇四八―五五六―九〇〇〇

FAX 〇四八―五五六―九〇〇七

URL/ www.oshi-goyuka.or.jp

e-mail/ gyouda@oshi-goyuka.or.jp

印刷 三共印刷株式会社

〒三六一―〇〇二一

埼玉県行田市富士見町二―一三〇

TEL 〇四八―五五六―六二〇一

FAX 〇四八―五五六―六二〇四

